SONY

4-157-612-**02**(1)

IC レコーダー

お買い上げいただきありがとうございます

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。

この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

取扱説明書

ICD-SX850/SX950

IC RECORDER

Printed in China

⚠警告 安全のために

事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

- **安全のための注意事項を守る**
- **故障したら使わない**
- **万一異常が起きたら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する**

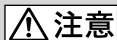
警告表示の意味

この取扱説明書では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなど人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

ぬれ手禁止

接触禁止

目次

準備

録音

再生

編集する

機能を活用する — メニュー

パソコンを活用する

困ったときは

その他

下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

運転中は使用しない

- 自動車、オートバイなどの運転をしながらイヤーレシーバーなどを使用したり、細かい操作をしたり、表示画面を見ることは絶対におやめください。交通事故の原因となります。
- また、歩きながら使用するときも、事故を防ぐため、周囲の交通や路面状況に充分ご注意ください。

内部に水や異物を落とさない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電池を抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

火災や感電の原因となることがあります。とくに風呂場では絶対に使用しないでください。

雷が鳴りだしたら、電源プラグに触れない

感電の原因となります。

⚠注意　下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

内部を開けない

感電の原因となることがあります。内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

大音量で長時間つづけて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。とくにイヤーレシーバーで聞くときにご注意ください。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。

はじめからボリュームを上げすぎない

突然大きな音がでて耳を痛めることがあります。

- 本製品の不具合により、録音や再生ができなかった場合、および録音内容が破損または消去された場合など、いかなる場合においても録音内容の補償についてはご容赦ください。
  また、いかなる場合においても、当社にて録音内容の修復、復元、複製などはいたしません。
- 本製品を使用したことによって生じた金銭上の損害、逸失利益および第三者からのいかなる請求につきましても、当社は一切その責任を負いかねます。
- 録り直しのきかない録音の場合は、必ず事前にためし録りをしてください。
- お客様が録音したものは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

バックアップのおすすめ

万一の誤消去や、ICレコーダーの故障などによるデータの消滅や破損にそなえ、大切な録音内容は、必ず予備として、コンピューターなどに保存してください。

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱・発火・誤飲による大けがや失明を避けるため、以下の注意事項を必ずお守りください。

電池の種類については、電池本体上の表示をご確認ください。種類によっては該当しない注意事項もあります。

充電式電池
ニカド(Ni-Cd)
ニッケル水素(Ni-MH)
リチウムイオン(Li-ion)

乾電池
アルカリ、マンガン

ボタン型電池
リチウムなど

⚠危険 充電式電池、乾電池、ボタン型電池が液漏れしたとき

- 充電式電池、乾電池の液が漏れたときは素手で液をさわらない。
- 液が本体内部に残ることがあるため、ソニーの相談窓口(裏表紙)またはソニーサービス窓口に相談する。
- 液が目に入ったときは、失明の原因になることがあるため、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師に相談する。
- 液が身体や衣服についたときは、やけどやけがの原因になるため、すぐにきれいな水で洗い流し、皮膚に炎症やけがの症状があるときには医師に相談する。

⚠危険 充電式電池について

- 機器の表示に合わせて+と−を正しく入れる。
- 取扱説明書に記載された充電方法以外で充電しない。
- バッテリーキャリングケースが付属されている場合は、必ずキャリングケースに入れて携帯、保管する。
- 火の中に入れない。
- ショートさせたり、分解、加熱しない。
- コイン、キー、ネックレスなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。
- 火のそばや直射日光のあたるところ、炎天下の車中など、高温の場所で使用、保管、放置しない。
- 水などで濡らさない。風呂場などの湿気の多いところで使わない。
- 外装のビニールチューブをはがしたり、傷つけない。
- 指定された種類の充電式電池以外は使用しない。
- 長時間使用しないときや、長時間USB ACアダプターで使用するときは取りはずす。
- 液漏れした電池は使わない。
- 種類の違う電池を混ぜて使わない。

日本国内での充電式電池の廃棄について

ニッケル水素充電池は、リサイクルできます。不要になったニッケル水素充電池は、金属部にセロハンテープなどの絶縁テープを貼って充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については有限責任中間法人JBRCホームページ http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html を参照してください。

⚠警告 乾電池、ボタン型電池について

- 小さい電池は飲み込む恐れがあるので、乳幼児の手の届かないところに保管する。**電池を飲み込んだときは、窒息や胃などへの障害の原因になるので、ただちに医師に相談してください。**
- 機器の表示に合わせて＋と－を正しく入れる。
- 充電しない。
- 火の中に入れない。
- ショートさせたり、分解したり、加熱したりしない。
- コイン、キー、ネックレスなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。
- 使い切った電池は取りはずす。長時間使用しないときや、USB ACアダプターで使用するときも取りはずす。
- 新しい電池と使用した電池、種類の異なる電池を混ぜて使わない。
- 液漏れした電池は使わない。

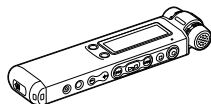
⚠注意 乾電池、ボタン型電池について

- 火のそばや直射日光の当たるところ、炎天下の車中など、高温の場所で使用、保管、放置しない。
- 水などで濡らさない。風呂場などの湿気の多いところで使わない。
- 外装のビニールチューブをはがしたり、傷つけない。
- 指定された種類の電池以外は使用しない。

お願い

使用済み充電式電池は貴重な資源です。端子（金属部分）にテープを貼るなどの処理をして、充電式電池リサイクル協力店にご持参ください。

箱の中身を確認しよう

本体(1)

表示窓に貼られているフィルムを剥がしてお使いください。

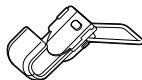
ソニー単4形充電式ニッケル水素電池(2)

ステレオイヤーレシーバー（1）

USBケーブル(1)

ウインドスクリーン(1)

内蔵マイクにかぶせてご使用ください。

スタンド(1)

電話録音用マイク(1)

パソコン用アプリケーションソフト Digital Voice Editor (CD-ROM)

ICレコーダーの基本ソフトウェアで、パソコンで録音データの保存や編集が可能です。

サウンド編集アプリケーションソフト Sound Forge Audio Studio LE (CD-ROM)

より高度な音声編集・加工にお使いください。

キャリングポーチ(1)

充電式電池用キャリングケース(1)

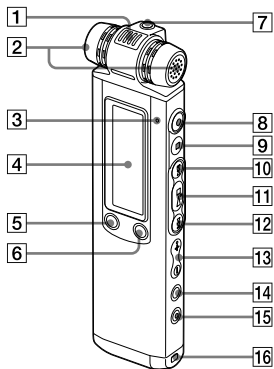
取扱説明書(1)

保証書(1)

ソニーご相談窓口のご案内(1)

この取扱説明書で説明している以外の変更や改造を行った場合、本機を使用できなくなることがありますので、ご注意ください。

各部のなまえ

本体(表面)

1 内蔵マイク(単一指向性)*1
(26、33ページ)

2 内蔵マイク(ステレオ)*1 (26、33ページ)

3 録/再ランプ
(17、19、26、50、79ページ)

4 表示窓(13ページ)

5 分割/(ブックマーク)ボタン
(41、58、67ページ)

6 (フォルダ)/メニューボタン
(26、50、71ページ)

7 (ヘッドホン)ジャック*2
(28、51、60ページ)

8 ●(録音/一時停止)ボタン
(26、27、37ページ)

9 ■(停止)ボタン(27、50、62、71ページ)

10 ▶▶|(早送り)ボタン
(26、50、51、59、71ページ)

11 ►■(再生/停止/決定)ボタン*3
(27、50、52、71ページ)

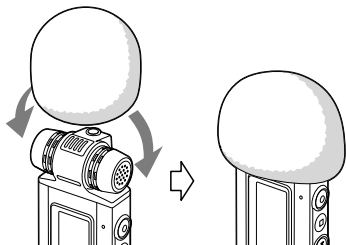
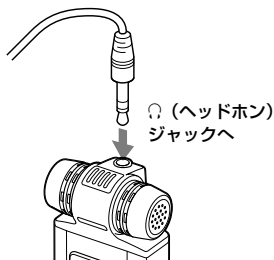
12 |◀◀(早戻し)ボタン
(26、50、51、59、71ページ)

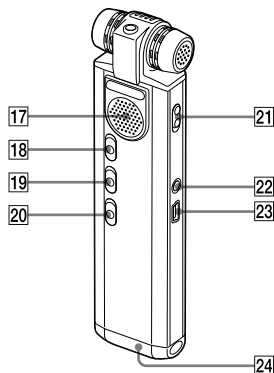
13 音量+*3/−ボタン(28、50ページ)

14 (リピート) A-B /重要ボタン
(53、69ページ)

15 消去ボタン(64ページ)

16 ストラップ取り付け部
(ストラップは付属していません。)

*1 屋外で使用する場合、風切音を軽減するため内蔵マイクを覆うように付属のウインドスクリーンをかぶせてください。

*2 付属または別売のステレオイヤーレシーバーを ∩（ヘッドホン）ジャックに差し込みます。雑音が入るときはイヤーレシーバーのプラグをきれいに拭いてください。

*3 凸点（突起）が付いています。操作の目安やジャックの識別にお使いください。

本体（裏面）

17 スピーカー

18 ホールドスイッチ（22、24、69ページ）

19 ノイズカット入／切スイッチ（57ページ）

20 DPC（速度調整）入／切スイッチ（55ページ）

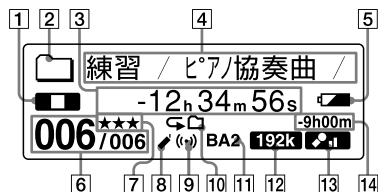
21 指向性入／切スイッチ（28ページ）

22 （マイク）プラグインパワージャック*3（46、48ページ）

23 （USB）端子（16、82、105ページ）

24 電池ぶた（16ページ）

表示窓

停止／再生時

1 動作モード表示
本機の動作状態に応じて下記のように表示されます。
：停止中
：再生中
：早戻し／早送り再生中
：連続用件戻し／送り

2 フォルダ表示
：本機で録音した用件が入るフォルダ
：パソコンからコピーした再生専用のフォルダ

3 経過時間、残り時間、録音日時表示

4 フォルダ名、用件タイトル名、アーティスト名、ファイル名表示

5 電池マーク
充電式電池や乾電池を使用しているときは電池残量を表示します。
充電式電池を充電中にはアニメーション表示になります。

6 位置情報表示
選んだ用件番号が分子にフォルダ内の総用件数が分母に表示されます。

7 重要マーク
用件に設定してある重要マークが表示されます。

8 ブックマーク表示
用件にブックマークが設定されていると表示されます。

9 アラーム表示
用件にアラームが設定されているとき表示されます。

10 リピート表示
1：1件用件リピート再生中
：フォルダ内用件リピート再生中
ALL：全用件リピート再生中

11 EFFECT表示
メニュー「EFFECT」の設定が表示されます。
BA1：メニューで「BASS1」に設定されている、低音強調モード1
BA2：メニューで「BASS2」に設定されている、低音強調モード2

12 録音モード表示
停止中はメニューで設定されている録音モードが、再生中はその用件の録音モードが表示されます。

48k、128k、192k：本機で録音したMP3ファイル

22/16、44/16：本機で録音したLPCMファイル

LP、SP、STLP、ST、STHQ：本機で録音したLPECファイル

詳しくは29ページの「録音モードを選ぶ」をご覧ください。

パソコンなどから転送されたファイルでは、下記のように表示されます。

MP3：転送されたMP3ファイル

LPCM：転送されたLPCMファイル

WMA：転送されたWMAファイル

録音モード情報を認識できない場合は下記のように表示されます。

---

13 録音感度表示
選択している録音時のマイクの感度が表示されます。

：口述録音

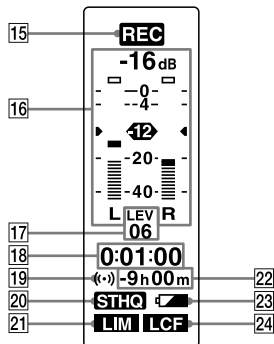
：会議録音

：高感度録音

：音楽録音

MAN：マニュアル録音

14 録音可能時間表示
録音可能時間を時間、分、秒で表示します。
10時間以上の場合：時間
10分以上、10時間未満の場合：時間と分
10分未満の場合：分と秒

録音時

15 動作モード表示
本機の動作状態に応じて下記のように表示されます。

REC：録音中

● II：録音一時停止中に点滅

REC VOR：VOR録音中

●II VOR：VOR録音一時停止中に点滅
VOR録音をONにしているときに●（録音／一時停止）ボタンを押して録音を一時停止すると ●II だけが点滅します。

REC SYNC：シンクロ録音中

●II SYNC：シンクロ録音一時停止中に点滅

16 録音レベルメーター

17 録音感度表示
録音時、録音マイクの感度の設定が表示されます。
: 口述録音
: 会議録音
: 高感度録音
: 音楽録音
マニュアル録音時は録音レベルが表示されます。

18 録音経過時間表示／プリレコーディング時間表示
録音経過時間は、100時間以上の場合は時間、分で表示し、100時間未満の場合は時間、分、秒で表示します。
プリレコーディング時間は、0から5秒のバッファした時間を表示します。

19 アラーム表示

20 録音モード表示
メニューで設定されている録音モードが表示されます。

21 リミッター表示
LIM：メニュー「LIMITER」の設定が「ON」のときに表示されます。
---：マニュアル録音以外のときに表示されます。

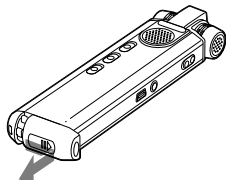
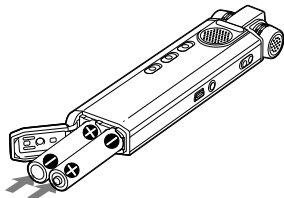
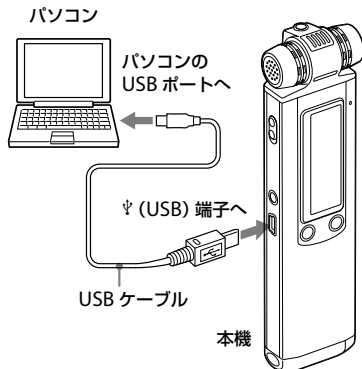
22 録音可能時間

23 電池マーク

24 LCF表示
LCF：メニュー「LCF（LOW CUT）」の設定が「ON」のときに表示されます。
---：メニュー「LCF（LOW CUT）」の設定が「OFF」のときに表示されます。

準備1: 電源を準備する

表示窓に貼られているフィルムを剥がしてお使いください。

1 電池ぶたを矢印の方向へずらして開ける。

2 単4形充電式ニッケル水素電池（付属）を入れ、ふたを閉める。

3 本機の•⟵(USB)端子と、起動しているパソコンを接続し、充電式電池（付属）を充電する。

充電中は、「接続中」と電池マークがアニメーション表示されます。

電池マークが「FULL」になったら充電完了です。（充電時間：約4時間*）

はじめてお使いになる場合や、しばらくお使いにならなかった場合は、なるべく電池マークが「FULL」になるまで連続して充電することをおすすめします。

電池マークが消灯していたら充電ができていません。手順1からやり直してください。

* 室温で電池残量がない状態から電池を充電したときの目安です。電池の残量や電池の状態などにより、前ページの充電時間と異なる場合があります。また、充電式電池の温度が低い場合や、データを本機に転送中なども充電時間は長くなります。

本機をパソコンから取りはずす

必ず下記の手順で取りはずしてください。この手順で行わないと、データが破損するおそれがあります。

1 録／再ランプが点滅していないことを確認する。

2 本機につながれているUSBケーブルをパソコンのUSBポートから取りはずす。

Windowsの場合：
タスクバーにある「ハードウェアの安全な取り外し」を左クリックし、「USB大容量記憶装置デバイス」を選びクリックしてください。

Macintoshの場合：
デスクトップの「IC RECORDER」のアイコンをドラッグして、「ゴミ箱」アイコンの上にドロップしてください。

取りはずしかたの詳細については、お使いのパソコンの取扱説明書をご覧ください。

ヒント

- USB ACアダプターを使って家庭用電源につないでも(105ページ)、充電できます。
- 電池を交換する際、電池を取りはずしても録音した用件やアラーム設定は消えません。
- 電池を交換する際、電池を取りはずしてもしばらくは、時計は動いています。

ご注意

- 電池マーク表示部に COLD または HOT が点滅している場合は充電ができません。周囲温度が5℃～ 35℃の環境で充電を行ってください。
- メニューで「詳細メニュー」の「USB充電」が「OFF」になっているとパソコンから充電することはできません。設定を「ON」にしてください(80ページ)。
- 内蔵スピーカーで再生しているときは充電ができません。
- 充電式電池をお使いの場合、電池マークが全点灯にならないことがあります。
- パソコンの電源が入っていても休止状態のときには充電できません。

お買い上げのあと、初めて電池を入れたときや、電池を抜いたまま長時間お使いにならなかった後に電池を入れたときには、年表示が点滅します。「準備2: 時計を合わせる」の「電池を充電後すぐに時計を合わせる」(20ページ)をご覧になり、時計を合わせてください。

電池を充電／交換する時期

電池の残量がなくなってくると、表示窓の電池マークでお知らせします。

電池残量の表示

: 電池の充電／交換時期が近づいています。

⬇

: 「電池残量がありません」が表示され、操作ができなくなります。

別売の単4形アルカリ乾電池をお使いになれます。マンガン電池はお使いになれません。

電池の持続時間

充電式電池の持続時間[*1]（ソニー充電式ニッケル水素電池NH-AAAを連続使用時）

	録音時	スピーカー再生時[*2]	ヘッドホン再生時
LPCM 44/16 モード[*3]	約19時間	約16時間	約20時間
LPCM 22/16 モード[*4]	約17時間	約15時間	約18時間
MP3 192k モード[*5]	約17時間	約16時間	約20時間
MP3 128k モード[*6]	約17時間	約16時間	約20時間
MP3 48k モード[*7]	約19時間	約16時間	約20時間
LPEC STHQ モード[*8]	約14時間	約15時間	約18時間
LPEC ST モード[*9]	約15時間	約16時間	約19時間
LPEC STLP モード[*10]	約17時間	約16時間	約20時間
LPEC SP モード[*11]	約17時間	約17時間	約21時間
LPEC LP モード[*12]	約19時間	約18時間	約22時間
音楽ファイル（WMA 128 kbps/44.1 kHz)	—	約16時間	約19時間

乾電池の持続時間[*1]（ソニーアルカリ乾電池LR03（SG）を連続使用時）

	録音時	スピーカー再生時[*2]	ヘッドホン再生時
LPCM 44/16 モード[*3]	約25時間	約21時間	約26時間
LPCM 22/16 モード[*4]	約23時間	約19時間	約23時間
MP3 192k モード[*5]	約22時間	約21時間	約26時間
MP3 128k モード[*6]	約22時間	約21時間	約26時間
MP3 48k モード[*7]	約25時間	約21時間	約26時間
LPEC STHQ モード[*8]	約18時間	約20時間	約24時間
LPEC ST モード[*9]	約20時間	約21時間	約25時間
LPEC STLP モード[*10]	約22時間	約21時間	約27時間

	録音時	スピーカー再生時*2	ヘッドホン再生時
LPEC SPモード*11	約22時間	約22時間	約28時間
LPEC LPモード*12	約26時間	約24時間	約30時間
音楽ファイル(WMA 128 kbps/44.1 kHz)	—	約20時間	約25時間

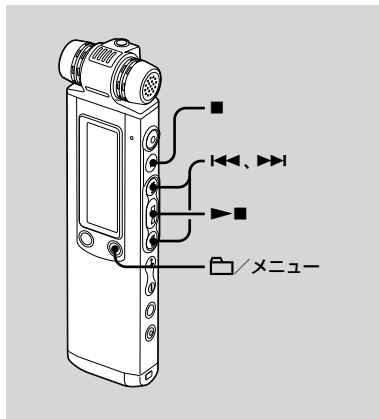
*1 電池持続時間は当社試験法によるものです。使用条件によって短くなる場合があります。
*2 音量レベルを20に設定し、内蔵スピーカーで音楽を再生した場合。
*3 LPCM 44/16モード：本機で録音したLPCMファイル、ステレオ高音質モード
*4 LPCM 22/16モード：本機で録音したLPCMファイル、ステレオ長時間モード
*5 MP3 192kモード:本機で録音したMP3ファイル、ステレオ高音質モード
*6 MP3 128kモード:本機で録音したMP3ファイル、ステレオ標準モード
*7 MP3 48kモード：本機で録音したMP3ファイル、モノラル標準モード
*8 LPEC STHQモード：LPECステレオ高音質モード
*9 LPEC STモード：LPECステレオ標準モード
*10 LPEC STLPモード：LPECステレオ長時間モード
*11 LPEC SPモード：LPECモノラル標準モード
*12 LPEC LPモード：LPECモノラル長時間モード

アクセス中のご注意

画面上にデータベース更新中のアニメーションと「データベース更新中. . .」表示が出ている間や、本体上部の録／再ランプがオレンジで点滅または赤で点灯している間は、メモリーへアクセス中です。アクセス中は、電池をはずしたり、USB ACアダプター（別売）を抜き挿ししたりしないでください。データが破損するおそれがあります。

ご注意

用件数が多いと、データベース更新中のアニメーションと「データベース更新中. . .」表示が長時間表示されることがありますが、故障ではありません。表示が消えるまでお待ちください。

準備2: 時計を合わせる

アラーム機能を使用したり、録音した日時を記録するためには、本機の時計を合わせておく必要があります。
お買い上げのあと、初めて電池を入れたときや、電池を抜いたまま一定期間お使いにならなかったあとに電池を入れたときは、「時計を設定してください」が表示された後、年表示が点滅します。

電池を充電後すぐに時計を合わせる

1 年月日と時分を合わせる。
⏮または⏭ボタンを押して、年、月、日、時、分の順で数字を選び、►■ボタンを押して決定する。

「実行中. . .」の表示が出て、時計合わせが終わります。

2 停止画面に戻すには■（停止）ボタンを押す。

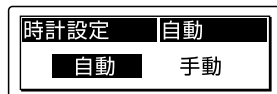
メニューを使って時計を合わせる

停止中にメニューを使って時計を合わせることができます。

1 メニュー画面で「時計設定」を選ぶ。
①🗀／メニューボタンを長押しして、メニューモードに入る。
メニュー画面が表示されます。

② ⏮または⏭ボタンを押して、「詳細メニュー」を選び、►■ボタンを押して決定する。

③ ⏮または⏭ボタンを押して、「時計設定」を選び、►■ボタンを押して決定する。

2 ⏮または⏭ボタンを押して、「自動」または「手動」を選び、►■ボタンを押して決定する。

「自動」を選んだ場合：本機をコンピューターにつないで付属のアプリケーションソフトDigital Voice Editorを起動すると、コンピューターの時計に自動的に合わせます。
「手動」を選んだ場合は次の手順に進んでください。

3 ⏮または⏭ボタンを押して、「09y1m1d」を選び、►■ボタンを押して決定する。

4 年月日と時分を合わせる。

⏮または⏭ボタンを押して、年、月、日、時、分の順で数字を選び、►■ボタンを押して決定する。

「実行中. . .」の表示が出て、時計合わせが終わります。

5 停止画面に戻すには■（停止）ボタンを押す。

ヒント

- 🗀／メニューボタンを押すと、1つ前の操作に戻ることができます。
- 時計の時刻表示形式はメニューで「12時間」と「24時間」に切り換えることができます。「12時間」に設定した場合は、「AM」、「PM」が表示されます。

ご注意

それぞれの手順の間を1分以上あけると、時計合わせがキャンセルされ、通常の表示に戻ります。

現在時刻を表示するには

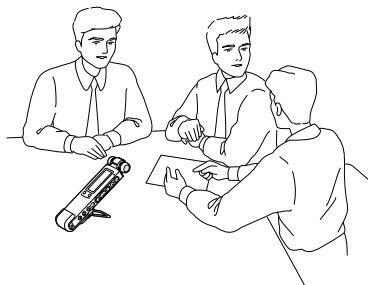
ホールドスイッチを矢印の方向にずらすと現在時刻が表示されます。

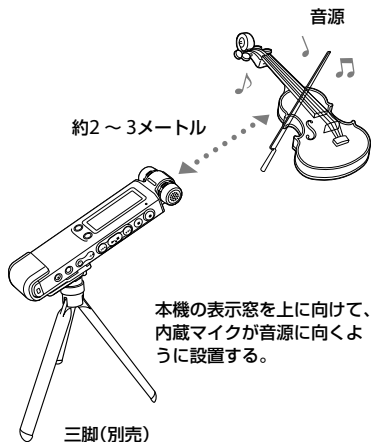
HOLD 1:23

準備3：用途に合わせた録音設定をする

それぞれの用途に合わせた、より詳細な録音設定については、ICレコーダーカスタマーサポートページをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/ic-rec-support

会議録音の場合

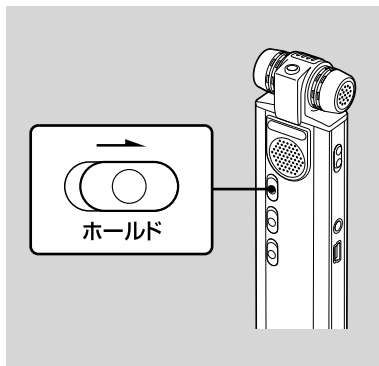
- 「録音感度」を「(会議設定)」または「(高感度設定)」に設定する（31ページ）。
- 特定方向の発言者の声を録音する場合は、本機の指向性入／切スイッチを「入」に設定する（28ページ）。
- プロジェクターなどのノイズを低減するには「LCF（LOW CUT）（ローカットフィルタ）」を「ON」に設定する（38ページ）。
- 本機を付属のスタンドに置いて録音すると、テーブルなどからの振動音を低減し、ノイズの少ない聴きやすい録音になります。

楽器や音楽録音

- 「録音感度」を「音楽」に設定する（31ページ）と、音のひずみを防ぎながら大きな音は大きく、小さな音は小さく自然な抑揚のある音楽録音ができます。また、「マニュアル」に設定すると、録音レベルを手動で調節できます（32ページ）。
- 「LIMITER」を「ON」に設定すると突発的に大きな音の入力があった場合に音がひずむのを防ぎます（34ページ）。
- 本機を付属のスタンドを使って三脚（別売）に取り付けると、本機や内蔵マイクの角度をより正確に調節できます。

口述録音（音声認識）の場合

- 「録音感度」を「口述」に設定する（31ページ）。
- 本体の指向性入／切スイッチを「入」に設定する（28ページ）。
- 別売の音声認識ソフトウェアで音声を文字に変換（テキスト変換）する場合は「録音モード」をLPCM、MP3、LPEC（LPモード除く）に設定する。（29ページ）。

ご注意

- ICレコーダーに対応している音声認識ソフトウェアについては、ICレコーダー・カスタマーサポートページをご覧ください。
  http://www.sony.co.jp/ic-rec-support
- ICレコーダーで録音した音声をテキストに変換する前に、話し手の発音や話しかたのくせを学習させる必要があります。これを「トレーニング」と呼んでいます。「トレーニング」の方法は音声認識ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
- 認識精度を高めるため、マイクが常に口から2 ～ 3センチの位置になるようにICレコーダーをお持ちください。
- 息の音が録音されないように、口の正面ではなく、やや横になるように本体をお持ちください。
- 認識精度を確保するため、なるべく静かな場所を選んで録音してください。
- 会議録音などで複数の人の声を録音した場合、音声認識することはできません。

電源を入／切する

本機をお使いにならないときは、電源を切ることで電池の消耗を抑えることができます。

電源を切るには

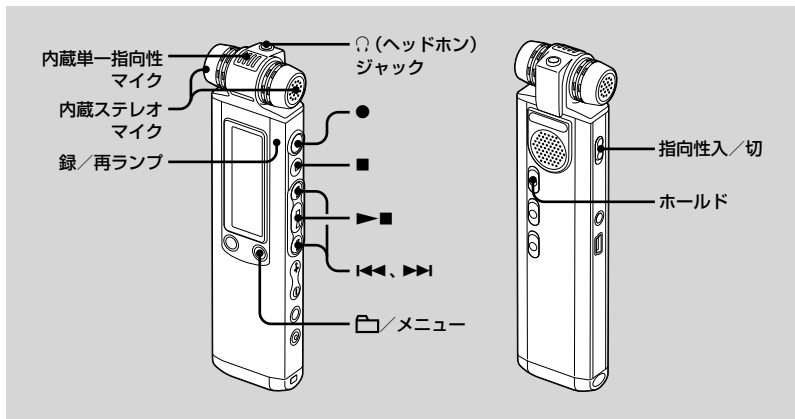
停止中にホールドスイッチを矢印の方向へずらすと、鍵マークと「HOLD」と時刻が表示されたあとに「電源オフ」が表示されます。
しばらくたつと表示が消灯して電源が切れます。

電源を入れるには

ホールドスイッチを矢印と逆方向へずらすと電源が入ります。

ヒント

- 長時間ご使用にならない場合は、電源を切っておくことをおすすめします。
- 電源を入れて停止状態のままおよそ10分経過すると自動的に表示が消灯して電源が切れます。（ボタンを押せば、操作できます。）

用件を録音する

1 フォルダを選ぶ。

①／メニューボタンを押してフォルダ選択画面を表示する。

②I◄◄または►►Iボタンを押して録音したいフォルダを選び、►■ボタンを押して決定する。

2 録音を始める。

①停止中に●（録音／一時停止）ボタンを押す。

録／再ランプが赤く点灯します。
（メニュー「LED」を「OFF」に設定しているときは点灯しません（79ページ）。）
●（録音／一時停止）ボタンは、録音中ずっと押し続ける必要はありません。
また長押しすると録音一時停止状態となります。
新しい用件は自動的に一番最後に録音されます。

②内蔵マイクに向かって話す。

3 録音を止めるには■（停止）ボタンを押す。

今録音した用件のはじめで停止します。

ヒント

- あらかじめ、ためし録りをしてから、録音することをおすすめします。
- お買い上げ時には5個のフォルダが作られています。ひとつのフォルダには最高999の用件が録音できます。
- Digital Voice Editorを使うと、新しいフォルダを作ったり、フォルダを消去することができます（87ページ）。
- 録音中にホールドスイッチを矢印の方向にずらすと、すべてのボタン操作ができなくなり、誤操作を防止します。

ご注意

- パソコンを使って作成したフォルダでは、録音ができません。フォルダで録音ボタンが押されると自動的に録音可能なフォルダになり、そのフォルダの最終用件として録音されます。
- 録／再ランプが赤またはオレンジに点灯・点滅中は電池をはずしたり、USB ACアダプターを抜き挿ししたりしないでください。データが破損するおそれがあります。
- 録音中、本機に手などが当たったり、こすったりすると雑音が録音されてしまうことがあります。ご注意ください。
- 録音を始める前に必ず電池の残量を確認してください（18ページ）。
- 録音感度を「口述」、「会議」、「高感度」および「音楽」に設定して録音しているときは、LIMITER設定は働きません。
- 長時間録音途中の電池交換を避けたいときは、別売のUSB ACアダプターをお使いください（105ページ）。
- 録音モードを混在して録音した場合、最大録音時間は任意に変化します。

その他の操作

録音を一時停止する*	●（録音／一時停止）ボタンを押す。 録音一時停止中は録／再ランプが赤く点滅し、●II（録音一時停止）表示が点滅します。
録音一時停止を解除する	もう一度●（録音／一時停止）ボタンを押す。 先ほど録音していた用件に続けて録音することができます。（録音一時停止後、録音を続けず、停止するときは、■（停止）ボタンを押します。）
今録音したばかりの用件を聞く**	►■ボタンを押す。 録音が解除され、今録音した用件のはじめから聞くことができます。
早戻し（レビュー）再生する**	録音中または録音一時停止中に⏮ボタンを長押しする。 録音が解除され、今録音したところが早戻し（レビュー）再生されます。⏮ボタンを離すと、離したところから再生が始まります。

* 録音を一時停止して約1時間たつと、録音一時停止は解除され、録音停止になります。

** マニュアル録音時は操作できません。

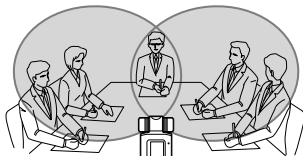
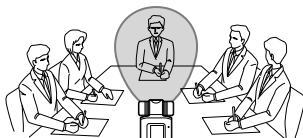
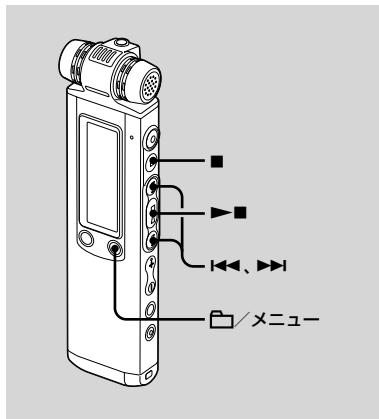
録音

録音中の音をモニターするには

ステレオイヤーレシーバーを🎧（ヘッドホン）ジャックにつないで、モニターします。
イヤーレシーバーからの音量（モニター音量）は、音量＋、－ボタンを押して調節します。
録音される音量に影響はありません。

マイクの指向性を切り換える

指向性入／切スイッチを「入」にすると、指向性マイクをむけた方向の音を中心に録音できます。講演や会議での発表者など、特定の方向の音を録音する場合に便利です。
指向性入／切スイッチを「入」にすると、単一指向性マイクを使用するため、ステレオ録音モード（LPCM 44/16、LPCM 22/16、MP3 192k、MP3 128k、STHQ、ST、STLP）が選ばれている場合でも、モノラル録音となります。
外部マイクを接続しているときは、指向性入／切スイッチは働きません。

指向性入／切スイッチを「切」にする。

指向性入／切スイッチを「入」にする。

録音モードを選ぶ

本機での録音は、LPCM（リニアPCM）、MP3、LPECの3種類のコーデックに対応しています。それぞれのコーデックは以下のような特長があります。

LPCM（リニアPCM）：WAVファイルとも呼ばれ、音声を圧縮せずにMP3/LPECより高音質な録音が可能です。一方ファイルサイズが大きくパソコンへの転送に時間がかかり、ICレコーダーでの録音時間はMP3/LPECより短くなります。楽器練習など特に音質を重視した録音の場合におすすめです。

MP3：音声を圧縮する一般的な方式で、多くのパソコン環境で再生が可能です。録音した内容をメールで送ったり、他の人と共有する場合におすすめです。

LPEC：音声を圧縮するソニー独自の方式で、良い音で長時間の録音が可能です。付属のアプリケーションソフト"Digital Voice Editor"での再生・編集やMP3/WAVへのフォーマット変換が可能です。録音した内容をパソコンで編集することが多い場合におすすめです。またLPEC方式で録音した場合には「ブックマーク」「重要マーク」などのマーキングができます。

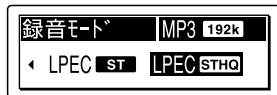
停止中にメニューで用途に応じた録音モードを選ぶことができます。
お買い上げ時、「録音モード」は「MP3 192k」に設定されています。

1 □／メニューボタンを長押しして、メニューモードに入る。

メニュー画面が表示されます。

2 ◄◄または►►Iボタンを押して、「録音モード」を選び、►■ボタンを押して決定する。

3 ⏮またはボタンを押して、希望の録音モードを選び、►■ボタンを押して決定する。

録音モード	MP3 192k
◂ LPEC ST	LPEC STHQ

LPCM 44/16：ステレオ（44.1 kHz/16bit, WAV）ステレオ音声でCD相当の高音質な録音ができます。
LPCM 22/16：ステレオ（22.05 kHz/16bit, WAV）ステレオ音声で高音質な長時間の録音ができます。
MP3 192k：ステレオ（44.1 kHz/192 kbps, MPEG1 Layer3）ステレオ音声で高音質な録音ができます。
MP3 128k：ステレオ（44.1 kHz/128 kbps, MPEG1 Layer3）ステレオ音声で録音ができます。
MP3 48k：モノラル（44.1 kHz/48 kbps, MPEG1 Layer3）モノラル音声で録音ができます。
LPEC STHQ：ステレオ高音質モード（44.1 kHz/128 kbps）ステレオ音声で高音質な録音ができます。
LPEC ST：ステレオ標準モード（44.1 kHz/48 kbps）ステレオ音声で録音ができます。
LPEC STLP：ステレオ長時間モード（44.1 kHz/24 kbps）ステレオ音声で長時間の録音ができます。
LPEC SP：モノラル標準モード（16 kHz/16 kbps）
LPEC LP：モノラル長時間モード（8 kHz/6 kbps）音質を重視しない簡易な録音、メモ録音はLPモードで長時間お使いになれます。

4 ■（停止）ボタンを押してメニューモードを終了する。

ご注意
録音中は「録音モード」の切り換えはできません。

録音可能時間について

最大録音時間は、全フォルダ合わせて表のとおりです。

ICD-SX850

LPCM 44/16 モード	LPCM 22/16 モード	MP3 192 kbps モード
6時間25分	12時間50分	47時間30分

MP3 128 kbps モード	MP3 48 kbps モード	LPEC STHQ モード
71時間15分	190時間5分	70時間10分

LPEC STモード	LPEC STLP モード	LPEC SPモード
185時間20分	356時間45分	564時間40分

LPEC LPモード
1,505時間55分

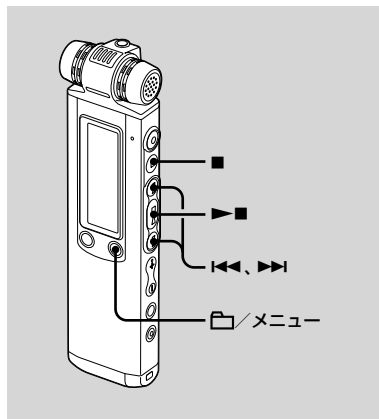
ICD-SX950

LPCM 44/16 モード	LPCM 22/16 モード	MP3 192 kbps モード
12時間55分	25時間50分	95時間15分

MP3 128 kbps モード	MP3 48 kbps モード	LPEC STHQ モード
142時間50分	381時間5分	140時間45分

LPEC STモード	LPEC STLP モード	LPEC SPモード
371時間35分	715時間20分	1,132時間15分

LPEC LPモード
3,019時間25分

録音感度を選ぶ

停止／録音時にメニューで録音感度設定を切り換え、用途に合わせて、内蔵マイクの感度を選ぶことができます。

お買い上げ時、「録音感度」は「会議 」に設定されています。

1 ／メニューボタンを長押しして、メニューモードに入る。

メニュー画面が表示されます。

2 **I◀◀または▶▶Iボタンを押して、「録音感度」を選び、▶■ボタンを押して決定する。**

3 **I◀◀または▶▶Iボタンを押して、録音感度を選び、▶■ボタンを押して決定する。**

口述：口述録音など、マイクを口元に近づけて録音したり、近くの音や大きい音を録音するときに使用します。

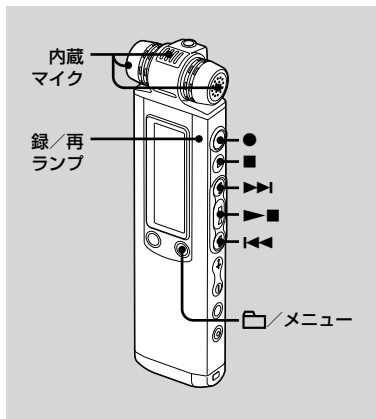
会議：会議室での録音やインタビューなど、通常の会話や打ち合わせの音声を録音するときに使用します。

高感度：広い会議室での録音など、遠くの音や小さい音を録音するときに使用します。

音楽：音のひずみを防ぎながら自然な抑揚のある録音ができます。楽器や音楽録音に適しています。

マニュアル：録音レベルを手動で調節できます。

4 **■（停止）ボタンを押してメニューモードを終了する。**

マニュアル録音

メニューで「録音感度」を「マニュアル」に設定すると、音源の状態に合わせて録音レベルを手動で調整することができます。

1 **メニューの「録音感度」で「マニュアル」を選ぶ。**

詳しくは「録音感度を選ぶ」（31ページ）をご覧ください。

2 フォルダを選ぶ。

①□／メニューボタンを押してフォルダ選択画面を表示する。

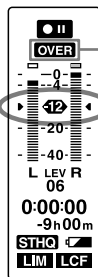
②I◀◀または▶▶Iボタンを押して録音したいフォルダを選び、►■ボタンを押して決定する。

3 ●（録音／一時停止）ボタンを長押しする。

録音スタンバイ状態になります。マイクの音が入ると、表示窓の録音レベルメーターが動きます。

4 I◀◀または▶▶Iボタンを押して、音源の状態に合わせて、録音レベルを調整する。

録音する音源の最大レベルが録音レベル表示で–12dBを目安に、音源にあった適切な範囲に調節して録音をします。

OVER 表示が出たときは音がひずみますので、OVER が表示されないレベルまでI◀◀ボタンを押して録音レベルを下げてください。

I◀◀または▶▶Iボタンを押し続けると連続して録音レベルを変えることができます。録音レベルはレベルメーターの下に数字でも表示されます。

5 録音状態に合わせた設定をする。

メニュー項目で、必要に応じて「LIMITER」（34ページ）や「LCF（LOW CUT）」（38ページ）などの録音に関係ある設定をします。

6 録音を始める。

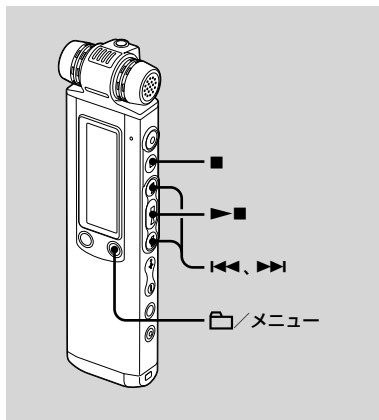
①●（録音／一時停止）ボタンを押す。
録／再ランプが赤く点灯し、「REC」が表示されます。
●（録音／一時停止）ボタンは、録音中ずっと押し続ける必要はありません。

②内蔵マイクに向かって話す。

7 録音を止めるには■（停止）ボタンを押す。

ヒント
マニュアル録音時の録音レベル設定は、録音が終了した後や他の録音感度設定(口述 など)に切り換えた後も、保持されますので、次回同じ設定でマニュアル録音を開始することができます。

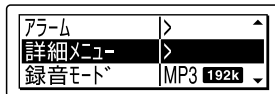
ご注意
- マニュアル録音時は、VOR録音(39ページ)はできません。
- マニュアル録音中は、►■ボタンを押しても、今録音したばかりの用件を聞くことはできません。

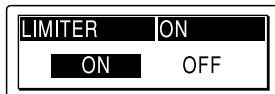
音のひずみを防ぐために入力を調整する — リミッター機能

停止／録音時にメニューで設定ができます。「LIMITER」を「ON」にすると、マニュアル録音時、突発的な大音量が入力された場合でも音がひずまないように、最大入力レベル以下に調整するための機能です。
音の過大な部分は最適なレベルに自動で調整され、音のひずみを防ぎます。

お買い上げ時、「LIMITER」は「ON」に設定されています。

1 🗀／メニューボタンを長押しして、メニューモードに入る。

メニュー画面が表示されます。

2 ⏮または⏭ボタンを押して、「詳細メニュー」を選び、►■ボタンを押して決定する。

3 ⏮または⏭ボタンを押して、「LIMITER」を選び、►■ボタンを押して決定する。

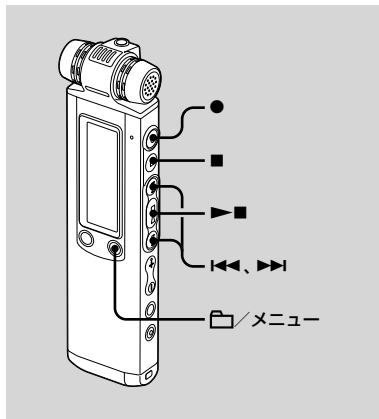
4 ⏮または⏭ボタンを押して、「ON」を選び、►■ボタンを押して決定する。

5 ■（停止）ボタンを押してメニューモードを終了する。

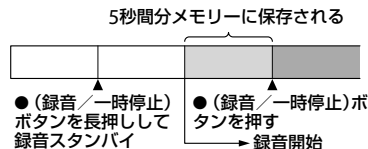
ご注意

録音感度設定が、「口述」、「会議」、「高感度」および「音楽」の場合、LIMITER設定は働きません。

リミッター機能を解除するには

手順4で「LIMITER」を「OFF」にします。

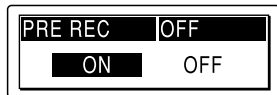
録音開始の少し前から録音する — プリレコーディング機能

停止時にメニュー「PRE REC」を「ON」に設定して、録音を一時停止にしておけば、一時停止中に0 ～ 5秒間分の音をメモリーに保存することによって、●（録音／一時停止）ボタンを押す0 ～ 5秒前の音から録音を開始することができます。インタビューや野外録音など、急な録音機会を逃したくない場合に便利です。

お買い上げ時、「PRE REC」は「OFF」に設定されています。

1 ⌂／メニューボタンを長押しして、メニューモードに入る。

メニュー画面が表示されます。

2 I◄◄または►►Iボタンを押して、「詳細メニュー」を選び、►■ボタンを押して決定する。

3 I◄◄または►►Iボタンを押して、「PRE REC」を選び、►■ボタンを押して決定する。

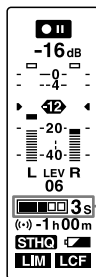
4 **⏮または⏭ボタンを押して、「ON」を選び、►■ボタンを押して決定する。**

5 **■（停止）ボタンを押してメニューモードを終了する。**

6 **フォルダを選ぶ。**

① 📁／メニューボタンを押してフォルダ選択画面を表示する。

② ⏮または⏭ボタンを押して録音したいフォルダを選び、►■ボタンを押して決定する。

7 **●（録音／一時停止）ボタンを長押しする。**

録音スタンバイ状態になります。
プリレコーディングが開始され、最大5秒前の音声を蓄積していきます。

8 **●（録音／一時停止）ボタンを押す。**

録音スタンバイが解除され、手順7で蓄積した音声から継続して録音が開始されます。

9 **録音を止めるには■（停止）ボタンを押す。**

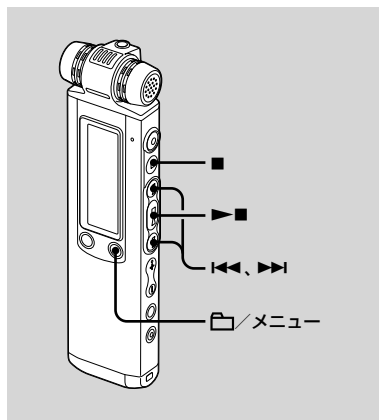
ご注意

- 内蔵マイクを使ってプリレコーディングをしようとすると、●（録音／一時停止）ボタンを押すときに雑音が入る場合があります。プリレコーディングをする場合は外部マイクを使って録音することをおすすめします。
- 録音可能時間が10秒未満になるとプリレコーディングはできません。
- 手順7の録音スタンバイ状態が60分以上続くとスタンバイ状態が解除され、録音停止になります。

• 手順8を行う前に録音を停止した場合、メモリーに蓄積されたプリレコーディングした音声は保存されません。

プリレコーディング機能を解除するには

手順4で「PRE REC」を「OFF」にします。

低い周波数の音をカットする — LCF（Low Cut Filter）機能

停止／録音時にメニューで設定ができます。
「LCF（LOW CUT）」を「ON」にすると、200 Hz以下の低い周波数の音をカットし、プロジェクターなどのファンノイズや風切り音を軽減することで、音源をよりクリアに録音できます。

お買い上げ時、「LCF（LOW CUT）」は「OFF」に設定されています。

1 ／メニューボタンを長押しして、メニューモードに入る。

メニュー画面が表示されます。

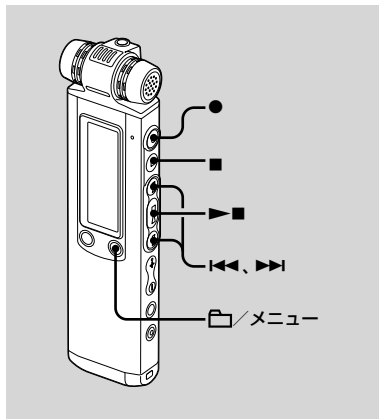
2 ⏮または⏭ボタンを押して、「LCF（LOW CUT）」を選び、►■ボタンを押して決定する。

3 ⏮または⏭ボタンを押して、「ON」を選び、►■ボタンを押して決定する。

4 ■（停止）ボタンを押してメニューモードを終了する。

LCF（Low Cut Filter）を解除するには

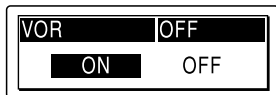
手順3で「LCF（LOW CUT）」を「OFF」にします。

音がしたとき自動録音する — VOR録音

ある大きさ以上の音をマイクが拾うと自動的に録音が始まり、音が小さくなると録音が一時停止するように設定することができます。
お買い上げ時、「VOR」は「OFF」に設定されています。

1 🗀／メニューボタンを長押しして、メニューモードに入る。

メニュー画面が表示されます。

2 ⏮または⏭ボタンを押して、「VOR」を選び、►■ボタンを押して決定する。

3 ⏮または⏭ボタンを押して、「ON」を選び、►■ボタンを押して決定する。

4 ■（停止）ボタンを押して、メニューモードを終了する。

5 ●（録音／一時停止）ボタンを押す。

REC と VOR が表示されます。

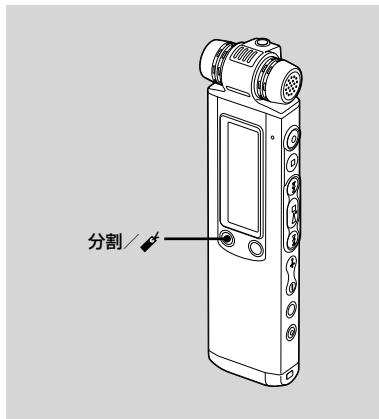
マイクで拾う音が一定レベル以下まで小さくなると、VOR と ●II（録音一時停止）が点滅して、VOR録音が一時停止状態になります。VOR録音一時停止状態のときに、マイクが一定レベル以上の大きさの音を拾うと、VOR録音が再開されます。

VOR録音を解除するには

手順3で「VOR」を「OFF」にします。

ご注意

- VOR機能は周囲の環境に左右されます。状況に合わせて録音感度を切り換えてください。録音感度を切り換えても思いどおりに録音できないときや、大切な録音をするときは、メニューで「VOR」を「OFF」に設定してください。
- VOR録音中に●（録音／一時停止）ボタンを押して録音を一時停止すると ●II だけが点滅します。
- シンクロ録音中（47ページ）、マニュアル録音中（32ページ）、プリレコーディング中（36ページ）はVOR機能は働きません。

録音の途中で分割して2つの用件として録音する — 分割新規録音

続けて録音しながら新しい用件として録音することができます。

録音中に分割／ ボタンを押す。

分割を示すアニメーションが表示されます。押したところから新しい用件番号がつき、2つの用件として録音されます。録音は途切れずに続けて録音されます。

用件1	用件2	用件3

▲
用件分割

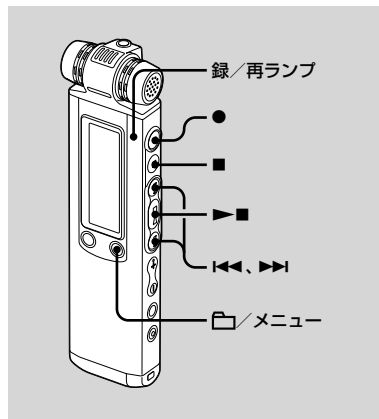
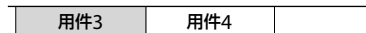
用件2と用件3は続けて録音される

ヒント

録音一時停止中でも用件分割できます。

ご注意

- 用件を分割するには、メモリーに一定の空き容量が必要です。詳しくは「システム上の制約」（104ページ）をご覧ください。
- フォルダに用件が999件ある場合は分割することができません。
- 分割した用件を本機では再結合することはできません。
- 用件のはじめから0.5秒までは用件分割はできません。
- 用件を分割した場合、前の用件の最後と後の用件の最初の音がわずかに切れることがあります。
- シンクロ録音（47ページ）中は用件を分割することはできません。
- 録音中に頻繁に用件分割してから次の操作をしたとき、録／再ランプが点滅し、操作を受け付けるまでの時間が長くなることがありますが、故障ではありません。ランプが消えるまでお待ちください。

録音済みの用件に追加録音する

メニューで追加録音を選んで（76ページ）、用件を再生中にその用件に追加して録音することができます。再生中の用件の最後に再生中の用件の一部として追加されます。

あらかじめ、追加録音したい用件を選んでください。

1 **／メニューボタンを長押しして、メニューモードに入る。**

メニュー画面が表示されます。

2 **I◄◄または►►Iボタンを押して、「追加／上書き」を選び、►■ボタンを押して決定する。**

3 **I◄◄または►►Iボタンを押して、「追加」を選び、►■ボタンを押して決定する。**

4 ■(停止)ボタンを押してメニューモードを終了する。

5 追加される用件を再生中に●(録音／一時停止)ボタンを押す。

「追加録音しますか？ [録音]ボタンで実行」が表示されます。

再生については50ページをご覧ください。

ﾋﾟｱﾉ協奏曲 002/500
追加録音しますか?
[録音]ﾎﾞﾀﾝで実行

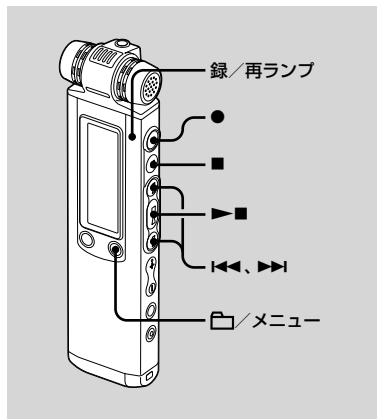
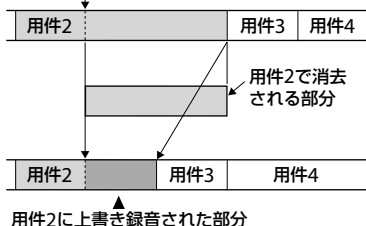
6 手順5の表示がされている間に●(録音／一時停止)ボタンを押す。

録／再ランプが赤に変わって、録音が始まります。

7 録音を止めるには■(停止)ボタンを押す。

ご注意

- 用件または音楽がファイルサイズの上限(LPCMファイルの場合は2GB、その他の場合は1GB)を超えているときは、追加録音はできません。
- LPCMファイルやMP3ファイルで本機で録音していないものには追加録音できません。
- 手順5で●(録音／一時停止)ボタンを押してからもう一度押すまでに10分以上経過してしまったら、手順5からやり直してください。

録音済みの用件の途中から上書き録音する

メニューで上書き録音を選んで(76ページ)、用件の中の指定した場所から、新しい用件を上書き録音できます。すでに録音してあった部分は消去されます。

あらかじめ、上書き録音したい用件を選んでください。

1 **□／メニューボタンを長押しして、メニューモードに入る。**

メニュー画面が表示されます。

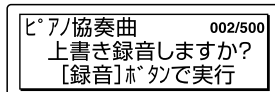
2 **⏮またはⅠ⏭ボタンを押して、「追加／上書き」を選び、►■ボタンを押して決定する。**

3 **⏮または⏭ボタンを押して、「上書き」を選び、►■ボタンを押して決定する。**

4 **■（停止）ボタンを押してメニューモードを終了する。**

5 **上書きされる用件を再生中に●（録音／一時停止）ボタンを押す。**

「上書き録音しますか？ [録音]ボタンで実行」が表示されます。

再生については50ページをご覧ください。

6 **手順5の表示が表示されている間に●（録音／一時停止）ボタンを押す。**

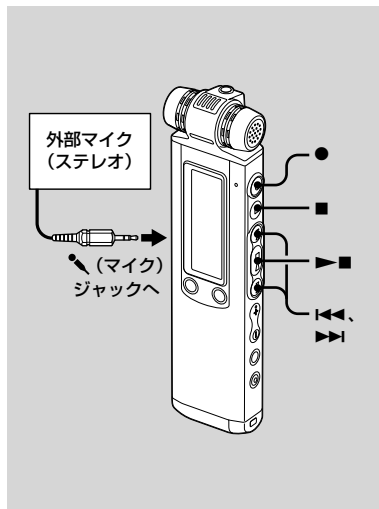
録／再ランプが赤に変わって、録音が始まります。

7 **録音を止めるには■（停止）ボタンを押す。**

ご注意

- LPCM以外のファイルの場合、用件または音楽がファイルサイズの上限(1GB)を超えているときは、上書き録音はできません。ただし、LPCMのファイルの場合は、用件または音楽がファイルサイズの上限(2GB)を超えているときでも、上書き録音の位置が先頭からファイルサイズの上限を超えていなければ、上書き録音ができます。
- LPCMファイルやMP3ファイルで本機で録音していないものには上書き録音できません。
- 手順5で●(録音/一時停止)ボタンを押してからもう一度押すまでに10分以上経過してしまったら、手順5からやり直してください。

外部マイクをつないで録音する

ヒント

あらかじめ、ためし録りをしてから、録音することをおすすめします。

1 停止中に外部マイクを（マイク）ジャックにつなぐ。

画面に「外部入力選択」が表示されます。

2 ⏮または⏭ボタンを押して、「MIC IN」を選び、►■ボタンを押して決定する。

外部入力選択 MIC IN
MIC IN　AUDIO IN

3 ●（録音／一時停止）ボタンを押す。

内蔵マイクは自動的に切れ、外部マイクの音を録音します。
入力レベルが適正ではない場合は、本機のマイク感度の設定を変更してください。
プラグインパワー対応のマイクを使うと、マイクの電源は本機から供給されます。

ご注意

外部入力選択が表示されない場合にはメニューで設定してください（71、78ページ）。

お使いになれるマイク

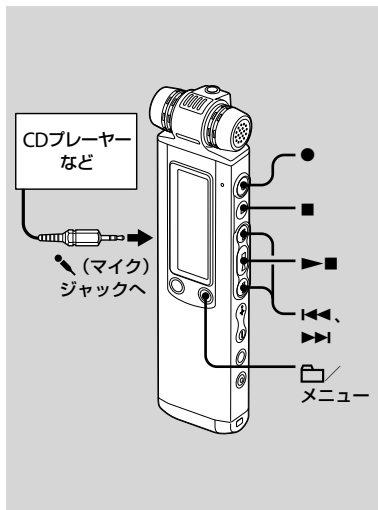
ソニー製エレクトレットコンデンサーマイクロホン（ステレオマイク） ECM-CS10、ECM-CZ10 （別売）などをお使いいただけます。

電話機や携帯電話の音声を録音するには

付属の電話録音用マイクまたは、別売の電話録音用マイクECM-TL1を使うと、電話機や携帯電話での自分と相手の声を録音することができます。
電話の受話器をあてる側の耳にイヤホンをセットし、プラグをマイクジャックに接続してお使いください。

ご注意

- 録音する場合には、本機と接続後、通話状態と録音レベルをご確認の上ご使用ください。
- 呼び出し音、発信音を録音した場合、会話が小さい音で録音されることがあります。そのような場合には、通話状態になってから本機を録音状態にしてください。
- 電話機の種類、回線の状況によってVOR機能が働かないことがあります。
- 本機を使って通話録音をした場合、万一、これらの不都合により録音されなかった場合は、一切の責任を負いません。

他の機器の音声を録音する

CDプレーヤーなど他の機器の音声を本機に録音することによって、パソコンを使わなくても、音楽ファイルを作成することができます。

シンクロ録音機能を使って録音すると、2秒以上無音の部分が続いた場合、録音は一時停止状態になり、次に音を感知したところから新しい用件として録音します。

ヒント

あらかじめ、ためし録りをしてから、録音することをおすすめします。

シンクロ録音機能を使って録音する

1 ／メニューボタンを長押しして、メニューモードに入る。

メニュー画面が表示されます。

2 I◄◄または►►Iボタンを押して、「詳細メニュー」を選び、►■ボタンを押して決定する。

3 I◄◄または►►Iボタンを押して、「シンクロ録音」を選び、►■ボタンを押して決定する。

録音

4 ⏮または⏭ボタンを押して、「ON」を選び、►■ボタンを押して決定する。

5 ■（停止）ボタンを押して、メニューモードを終了する。

6 停止中に他の機器を本機につなぐ。

他の機器の音声出力端子（ステレオミニジャック）を別売のソニー製オーディオコード*を使って、本機の🎤（マイク）ジャックにつなぎます。

画面に「外部入力選択」が表示されます。

7 ⏮または⏭ボタンを押して、「AUDIO IN」を選び、►■ボタンを押して決定する。

外部入力選択 MIC IN
MIC IN AUDIO IN

8 ●（録音／一時停止）ボタンを押す。

● II SYNC が点滅してシンクロ録音が一時停止の状態になります。

9 つないだ機器で再生を始める。

REC SYNC が表示され、シンクロ録音が開始されます。

2秒以上無音の部分が続くと、● II SYNC が点滅して、シンクロ録音が一時停止状態になります。シンクロ録音一時停止状態のときに、次に音を感知したところから新しい用件として、シンクロ録音が再開されます。

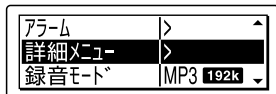
ご注意

- シンクロ録音中は、分割新規録音（41ページ）、録音一時停止（27ページ）、VOR録音（39ページ）、プリレコーディング（36ページ）はできません。
- ご使用の機器によっては、音声入力レベルの違いなどによりシンクロ録音機能が正常に動作しない場合があります。

シンクロ録音機能を使わずに録音する

1 🗀／メニューボタンを長押しして、メニューモードに入る。

メニュー画面が表示されます。

2 **⏮またはボタン⏭を押して、「詳細メニュー」を選び、►■ボタンを押して決定する。**

3 **⏮または⏭ボタンを押して、「シンクロ録音」を選び、►■ボタンを押して決定する。**

4 **⏮または⏭ボタンを押して、「OFF」を選び、►■ボタンを押して決定する。**

5 **■（停止）ボタンを押して、メニューモードを終了する。**

6 **停止中に他の機器を本機につなぐ。**

他の機器の音声出力端子（ステレオミニジャック）を別売のソニー製オーディオコード*を使って、本機の（マイク）ジャックにつなぎます。
画面に「外部入力選択」が表示されます。

7 **⏮または⏭ボタンを押して、「AUDIO IN」を選び、►■ボタンを押して決定する。**

8 **●（録音／一時停止）ボタンを押す。**

内蔵マイクは自動的に切れ、つないだ機器の音声を録音します。

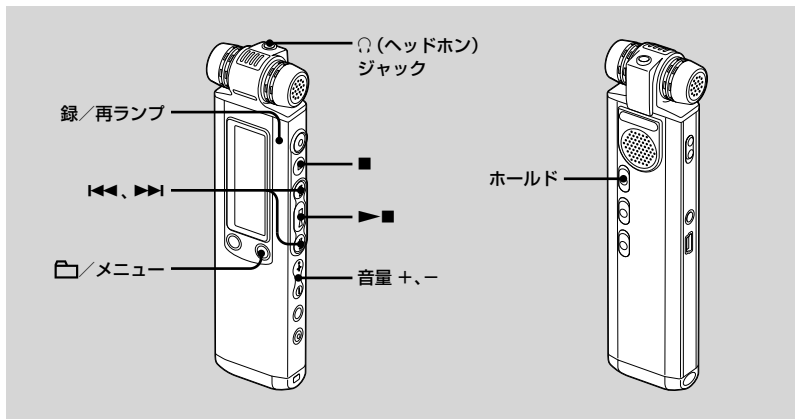
9 **つないだ機器で再生を始める。**

*お使いになれるオーディオコード（別売）

	本機側	接続先機器側
RK-G139	ステレオミニプラグ	ミニプラグ（モノラル）
RK-G136	ステレオミニプラグ	ステレオミニプラグ

ご注意

- 入力レベルが適正ではない場合は、手順6で他の機器のヘッドホン端子（ステレオミニジャック）を使って本機と接続し、つないだ機器側で音量を調節してください。
- 外部入力選択が表示されない場合にはメニューで設定してください（71、78ページ）。

用件を再生する

1 フォルダを選ぶ。

①／メニューボタンを押す。

②⏮または⏭ボタンを押して、フォルダを選び、►■ボタンを押して決定する。

2 ⏮または⏭ボタンを押して、聞きたい用件を選ぶ。

3 ►■ボタンを押して、再生を始める。

録／再ランプが緑に点灯します。
（メニュー「LED」を「OFF」に設定しているときは点灯しません（79ページ）。）

4 音量＋、−ボタンを押して音量を調節する。

5 再生を止めるには■（停止）ボタンを押す。

ヒント
再生中にホールドスイッチを矢印の方向にずらすと、すべてのボタン操作ができなくなり、誤操作を防止します。

高音質で再生するには

- イヤーレシーバーで聞く：
  付属のステレオイヤーレシーバーを（ヘッドホン）ジャックにつないでください。スピーカーからは音が出なくなります。
- 外部スピーカーで聞く：
  別売のアクティブスピーカーを（ヘッドホン）ジャックにつないでください。

聞きたいところをすばやく探すには －イージーサーチ機能

メニューの中で「イージーサーチ」を「ON」に設定しておくと、再生中に▶▶Iまたは I◀◀ボタンを何度か押して聞きたいところまで早送り、早戻しをして聞くことができます（76ページ）。I◀◀ボタンを1回押すごとに約3秒前、▶▶Iボタンを1回押すごとに約10秒先を再生します。会議録音などで、聞きたいところをすばやく探すのに便利です。

再生中に早送り／早戻しするには（キュー／レビュー）

- 早送り（キュー）：再生中に▶▶Iボタンを押したままにして、聞きたいところで離します。
- 早戻し（レビュー）：再生中にI◀◀ボタンを押したままにして、聞きたいところで離します。

最初は少しずつ早送り／早戻しされるので、1語分だけ戻したり、送ったりして聞きたいときに便利です。押し続けると、高速での早送り／早戻しになります。

最後の用件の終わりまで再生または早送り（キュー）すると

- 最後の用件の終わりまで来ると、「MESSAGE END」表示が5秒点灯します。
  点灯中は録／再ランプは緑に点灯しています（再生音は聞こえません）。
- 「MESSAGE END」と録／再ランプが消えると、最後の用件の頭に戻って止まります。
- 「MESSAGE END」の点灯中にI◀◀ボタンを押したままにすると、早戻しされ、離したところから再生が始まります。
- 最後の用件が長時間の用件の場合で、用件中の後ろの方を探して再生したい場合は、▶▶Iボタンを押し続けていったん用件の最後まで早送りして、「MESSAGE END」表示の点灯中にI◀◀ボタンを押して聞きたいところまで早戻しして探すと便利です。
- 最後の用件以外の場合は、次の用件の頭に送ってから再生中に早戻しするとすばやく探せます。

その他の操作

再生の途中、その位置で停止する	■（停止）ボタンまたは►■ボタンを押す。 もう一度►■ボタンを押すと、止めたところから再生が始まります。
今聞いている用件の頭に戻る*	I◄◄ボタンを短く1回押す。**
前の用件、さらに前の用件に戻る	I◄◄ボタンを短く何回か押す。 （停止中は押したままにすると、連続して戻ります。）
次の用件に進む*	►►Iボタンを短く1回押す。**
さらに次の用件に進む	►►Iボタンを短く何回か押す。 （停止中は押したままにすると、連続して戻ります。）

* ブックマーク（58ページ）を設定してある場合は、用件の頭ではなく、ブックマークの位置まで進み／戻ります。

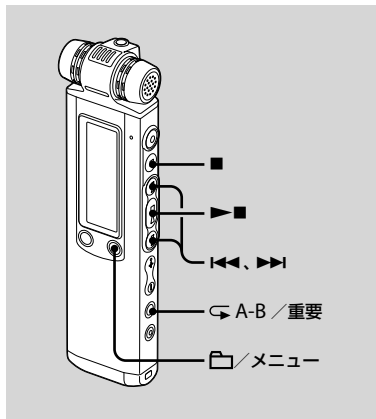
** メニュー「イージーサーチ」が「OFF」に設定されている場合の操作です（76ページ）。

1件リピート再生

再生中に►■ボタンを長押しします。

「⊊1」が表示されます。

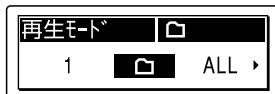
通常再生に戻るには、►■ボタンを押します。

再生方法を変える（再生モード）

メニューで用途に応じた再生モードを選ぶことができます。

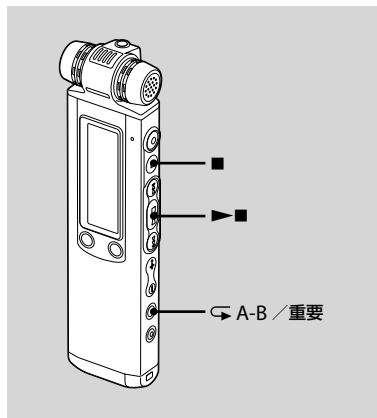
1 ／メニューボタンを長押しして、メニューモードに入る。

メニュー画面が表示されます。

2 **⏮または⏭ボタンを押して、「再生モード」を選び、►■ボタンを押して決定する。**

3 **⏮または⏭ボタンを押して、「1」、「🗀」、「ALL」、「↻1」、「↻ 🗀」または「↻ ALL」を選び、►■ボタンを押して決定する。**

1	1件用件を再生する。
🗀	フォルダ内の用件を連続再生する。
ALL	全用件を連続再生する
↻1	1件用件をリピート再生する。
↻🗀	フォルダ内の用件をリピート再生する。
↻ ALL	全用件をリピート再生する。

4 **■(停止)ボタンを押してメニューモードを終了する。**

必要な部分だけを再生する — A-Bリピート

1 **再生中に ↻A-B ／重要ボタンを押して、A点を指定する。**

「A-B B?」が表示されます。

2 **もう一度 ↻A-B ／重要ボタンを押して、B点を指定する。**

「↻A-B」が表示されて、指定した区間が繰り返し再生されます。

A-Bリピート再生を止めて通常の再生に戻すには

►■ボタンを押します。

A-Bリピート再生を停止するには

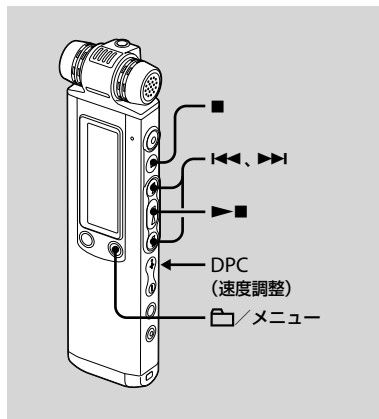
■（停止）ボタンを押します。

A-Bリピートの範囲を変えるには

A-Bリピート再生中にもう一度 ⊊A-B ／重要ボタンを短く押すと、手順1に戻り、新しいA点が設定されます。手順2に従ってB点を指定します。

ご注意

- 用件のはじめから0.5秒までと終わりから0.5秒までの間ではA点、B点の設定はできません。
- ブックマーク設定前後の0.5秒の間ではA点、B点の設定はできません。

再生速度を調整する — DPC（デジタル・ピッチ・コントロール）機能

再生速度を＋200%から–75%の間で調整できます。その際、音程はデジタル処理により、自然に近いレベルで再生します。

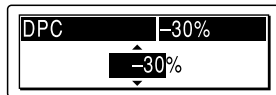
1 **DPC（速度調整）入／切スイッチを「入」にする。**

2 **🗀／メニューボタンを長押しして、メニューモードに入る。**

メニュー画面が表示されます。

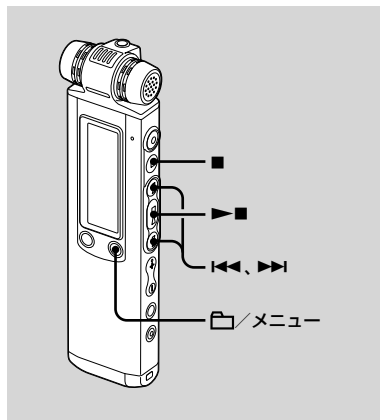
3 **⏮または⏭ボタンを押して、「DPC」を選び、►■ボタンを押して決定する。**

4 **⏮または⏭ボタンを押して、再生速度を調整する設定値を選び、►■ボタンを押して決定する。**

＋設定では「＋10」刻みで、−設定では「−5」刻みで設定します。

5 **■（停止）ボタンを押してメニューモードを終了する。**

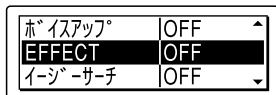
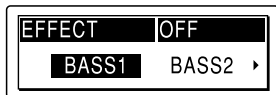
通常の再生速度に戻すには

DPC（速度調整）入／切スイッチを「切」にします。

低音を強調する

メニューで再生する音楽によって適した低音レベルを設定します。内蔵スピーカーで再生している場合には設定は働きません。

再生

1 **□／メニューボタンを長押しして、メニューモードに入る。**
メニュー画面が表示されます。

2 **⏮または⏭ボタンを押して、「EFFECT」を選び、►■ボタンを押して決定する。**

3 **⏮または⏭ボタンを押して、お好みの音質を選び、►■ボタンを押して決定する。**

BASS1	低音が強調されます。
BASS2	低音が更に強調されます。
OFF	EFFECT機能は働きません。

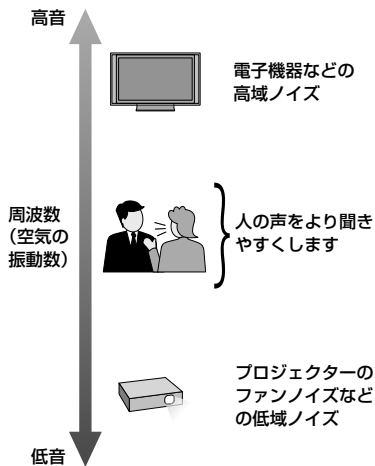
4 **■（停止）ボタンを押してメニューモードを終了する。**

ご注意
ノイズカット入／切スイッチが「入」になっている場合は、「EFFECT」機能は働きません。

雑音を低減して音声を聞きやすくする ― ノイズカット機能

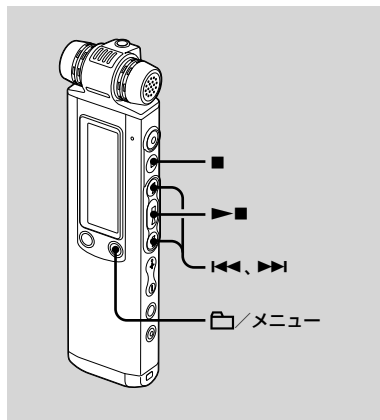
録音した音声を聞きやすくするために、音声帯域には影響の出ない低域と高域の雑音を低減して、音声をより聞きやすくします。
内蔵スピーカーで再生している場合にはノイズカット機能は働きません。

再生中にノイズカット入／切スイッチを「入」にする。

ご注意

- ノイズカット入／切スイッチが「入」になっている場合は、「EFFECT」機能は働きません。
- 録音した音声の状態によって、効果に違いがでる場合があります。

ノイズカット機能を解除するには

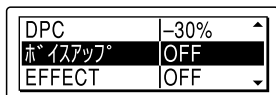
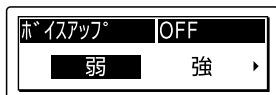
ノイズカット入／切スイッチを「切」にします。

小さな音も聞きやすい大きさで再生する — デジタルボイスアップ機能

再生中にメニューで「ボイスアップ」を「弱」、または「強」に設定することによって、聞き取りにくい小さな音も聞きやすい大きさに自動調整して再生することができます。

1 ▭／メニューボタンを長押しして、メニューモードに入る。

メニュー画面が表示されます。

2 ⏮または⏭ボタンを押して、「ボイスアップ」を選び、►■ボタンを押して決定する。

DPC	–30%
ﾎﾞｲｽｱｯﾌﾟ	OFF
EFFECT	OFF

3 ⏮または⏭ボタンを押して、「弱」、または「強」を選び、►■ボタンを押して決定する。

弱：ボイスアップ機能の効果を小さくします。

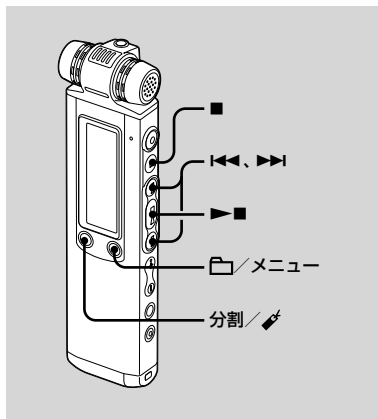
強：ボイスアップ機能の効果を大きくします。

OFF：ボイスアップ機能を無効にします。

4 ■（停止）ボタンを押してメニューモードを終了する。

ボイスアップ機能を解除する

手順3で「ボイスアップ」を「OFF」にします。

ブックマークを設定する

ブックマークは用件の途中で設定し、再生時に利用します。設定できるブックマークの数は1つの用件に1つずつです。

再生中、または停止中にブックマークを付けたい場所で分割／（ブックマーク）ボタンを長押しする。

表示（ブックマーク）が3回点滅し、ブックマークが設定されます。

すでにブックマークの設定された用件に新たに設定すると、古いブックマークは解除され、新しい位置にブックマークが移動します。

ブックマークの位置から再生を始めるには

停止中に⏮または⏭ボタンを押します。ブックマーク表示が1回点滅したら、►■ボタンを押します。

ブックマークを削除するには

1 🗀／メニューボタンを長押しして、メニューモードに入る。
メニュー画面が表示されます。

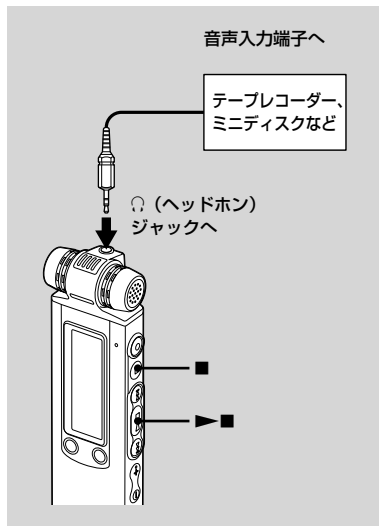
2 ⏮または⏭ボタンを押して、「ブックマーク消去」を選び、►■ボタンを押して決定する。
「ブックマークを消去しますか？」と表示されます。

3 ⏮または⏭ボタンを押して、「はい」を選び、►■ボタンを押して決定する。
ブックマーク消去のアニメーションと「消去中...」が表示され、設定したブックマークは消去されます。

4 ■（停止）ボタンを押してメニューモードを終了する。

ご注意

- MP3ファイル、LPCMファイル、WMAには設定できません。
- 用件の先頭や終端にはブックマークの設定ができません。

本機の音声を他の機器で録音する

他の機器で本機の音声を録音する場合は、本機の ∩（ヘッドホン）ジャックと他の機器の音声入力端子（ステレオミニジャック）を、別売のソニー製オーディオコード*を使ってつなぎます。

1 本機の ∩（ヘッドホン）ジャックと他の機器の音声入力端子を、別売のソニー製オーディオコード*を使ってつなぐ。

2 本機の►■ボタンを押して再生状態にし、同時に、つないだ機器の録音ボタンを押して、録音状態にする。

本機の用件が他の機器に録音されます。

3 録音を止めるには、本機の■（停止）ボタンを押し、つないだ機器の停止ボタンを押す。

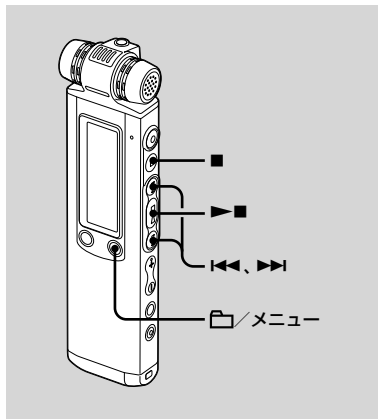
***お使いになれるオーディオコード（別売）**

ラインインを使って接続するときは、次の抵抗なしオーディオコードをお使いください。

	本機側	接続先機器側
RK-G139	ステレオミニプラグ	ミニプラグ（モノラル）
RK-G136	ステレオミニプラグ	ステレオミニプラグ

ヒント

あらかじめ、ためし録りをしてから、録音することをおすすめします。

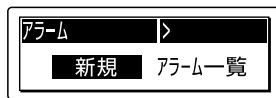
希望の時刻に再生を始める — アラーム再生

あらかじめ設定した時刻にアラーム音とともに用件を再生できます。
特定の日付を指定したり、毎週同じ曜日や毎日同じ時刻に再生するように設定できます。

1 アラーム再生したい用件を表示させる。

2 アラーム設定をする。

①🗀／メニューボタンを長押しして、メニューモードに入る。
メニュー画面が表示されます。

②メニュー画面で「アラーム」を選び、►■ボタンを押して決定する。

③I◄◄または►►Iボタンを押して、「新規」を選び、►■ボタンを押して決定する。

3 アラーム再生したい日時、時刻を設定する。

①I◄◄または►►Iボタンを押して、「日時」、「月曜日」や「火曜日」など設定したい曜日、または「毎日」を選び、►■ボタンを押して決定する。

②**「日時」を選んだ場合**：
「時計を合わせる」（20ページ）に従って年月日、時刻を設定します。「実行中. . . 」の表示が出て、設定された内容が表示されます。
曜日や「毎日」を選んだ場合：
⏮または⏭ボタンを押して「時」を選び、►■ボタンを押して決定し、⏮または⏭ボタンを押して「分」を選び、►■ボタンを押して設定します。「実行中. . . 」の表示が出て、設定された内容が表示されます。
メニューを終了すると「(•)」が表示されて、選んだ用件にアラームが設定されます。

4 ■（停止）ボタンを押してメニューモードを終了する。

設定した時刻になると

約10秒間アラーム音が鳴り「ALARM」が表示されて、選んだ用件の再生が始まります。
再生が終わると、自動的に停止します（アラーム再生した用件の頭に戻ります）。

アラーム再生された用件をもう一度聞くには

►■ボタンを押すと、その用件のはじめから再生されます。

用件が再生される前に止めるには

アラーム音が鳴っている間に ■（停止）ボタンを押します。ホールドスイッチが入っていても止められます。

設定内容を変更するには

1 メニュー「アラーム」→「アラーム一覧」を選び、►■ボタンを押して決定する。
アラーム一覧が表示されます。

2 ⏮または⏭ボタンを押して、変更したい設定を選び、►■ボタンを押して決定する。

3 ⏮または⏭ボタンを押して「変更」を選び、►■ボタンを押して決定する。

4 「日時」、「月曜日」や「火曜日」など曜日、または「毎日」など、変更したい項目を選び、►■ボタンを押して決定する。

5 日時と時刻を選び、►■ボタンを押して決定する。
「実行中. . . 」の表示が出て、変更された内容が表示されます。

6 ■（停止）ボタンを押してメニューモードを終了する。

設定内容を解除するには

「設定内容を変更するには」の手順3で「解除」を選び、►■ボタンを押して決定します。「アラームを解除しますか？」が表示されます。
⏮または⏭ボタンを押して「はい」を選び、►■ボタンを押して決定するとアラームは解除されます。表示窓のアラーム表示が消えます。

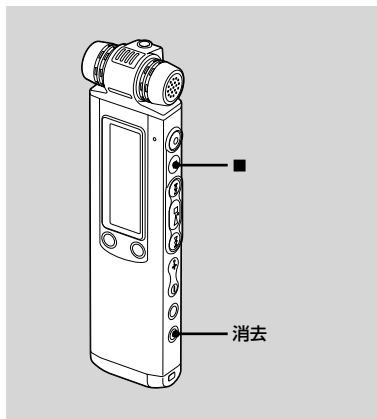
ご注意

- 1件の用件には1個のアラームしか設定できません。
- 時計を合わせていない場合や、用件が録音されていない場合は、アラーム設定はできません。
- フォルダ表示が 🗀 になっているときはアラーム設定ができません（85ページ）。
- メニューで「ビープ」を「OFF」に設定していてもアラームが鳴ります。
- 録音中にアラーム設定した時刻になった場合は、「((•))」表示のみが点滅し、録音を終了したときにアラームが鳴り始めます。
- 消去中にアラーム設定した時刻になった場合、消去が終了後にアラームが鳴ります。
- データ更新中にアラーム設定した時刻になった場合は、そのアラームは自動的に破棄されます。
- 2つ以上のアラーム設定時刻になった場合は、時刻の早い方の用件のみアラームが鳴ります。
- 一度設定したアラームは、アラーム再生を終了した後も解除されません。
- アラーム再生中に別の用件の設定時刻になった場合、用件の途中で次のアラーム再生が始まります。
- メニュー操作中にアラーム設定時刻になったときはメニュー操作が中止され、アラームが鳴り始めます。
- アラーム設定した用件を用件分割した場合、分けた時点より前の用件にのみアラーム設定されます
- アラーム設定した用件を消去すると、用件に設定されたアラームも一緒に解除されます。

用件を消去する

録音した用件を1件ずつ、または1つのフォルダ内の全用件を一度に消去できます。

ご注意
一度消去した内容はもとに戻すことはできません。ご注意ください。

1件ずつ消去する

停止中または再生中に消したい用件だけを消去できます。
用件を消すと、次の用件が自動的に繰り上がるので、間に空白部分は残りません。

1 **消去したい用件を再生中に消去ボタンを押す。または、停止中に消去ボタンを長押しする。**
   用件タイトル、用件番号、「消去しますか？ [消去]ボタンで実行」が表示され、用件の再生が始まります。

2 **「消去しますか？ [消去]ボタンで実行」が表示されている間に消去ボタンをもう一度押す。**
   「消去中. . . 」が表示され、用件が1件消去、以降の用件番号が繰り上がります。

消去を止めるには

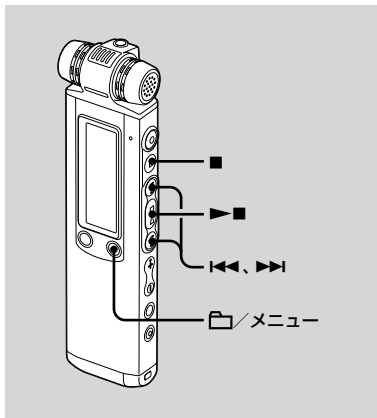
手順1で ■（停止）ボタンを押します。

他の用件を消去するには

手順1から2を繰り返します。

ひとつの用件の一部分だけ消去するには

用件分割で消去する部分としない部分に分け、消去したい部分の用件番号を選んで手順1と2の操作をします。

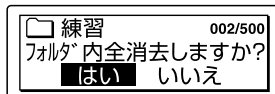
フォルダの中身を一度に消去する

1 停止中に消去したいフォルダを選ぶ。

2 ／メニューボタンを長押しして、メニューモードに入る。

メニュー画面が表示されます。

3 ⏮または⏭ボタンを押して、「フォルダ内消去」を選び、►■ボタンを押して決定する。

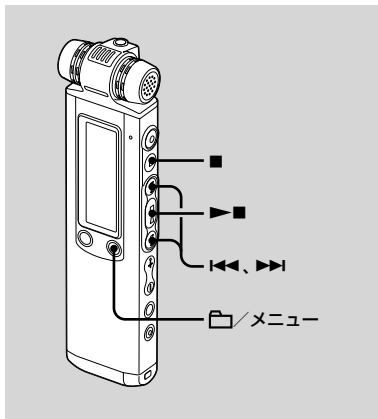
「フォルダ内全消去しますか？」と表示されます。

4 ⏮または⏭ボタンを押して、「はい」を選び、►■ボタンを押して決定する。

消去のアニメーションと「消去中…」が表示され、選んだフォルダ内の全用件は消去されます。

5 ■（停止）ボタンを押してメニューモードを終了する。

途中で消去をやめるには

手順4で「いいえ」を選び、►■ボタンを押して決定します。

用件を別のフォルダに移動する

ご注意

- フォルダ表示が ⌂ になっているときは用件の移動はできません(85ページ)。
- ⌂ へ用件の移動はできません。

1 移動したい用件を選ぶ。

2 ⌂／メニューボタンを長押しして、メニューモードに入る。

メニュー画面が表示されます。

3 I◄◄または►►Iボタンを押して、「用件移動」を選び、►■ボタンを押して決定する。

移動したい用件が再生されます。

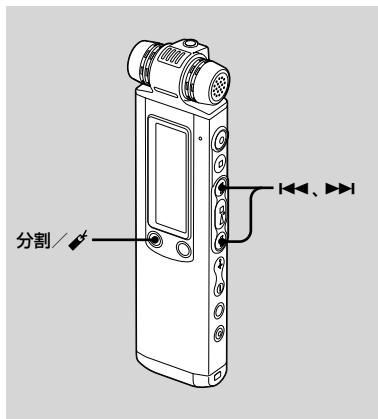
4 I◄◄または►►Iボタンを押して、移動先のフォルダを選び、►■ボタンを押して決定する。

「実行中. . .」が表示され、移動先フォルダの最終用件の位置に用件を移動します。移動すると、もとのフォルダからその用件はなくなります。

5 ■(停止)ボタンを押してメニューモードを終了する。

途中で用件の移動をやめるには

手順4の前に■(停止)ボタンを押します。

用件をふたつに分ける — 用件分割

再生中に用件を分割して、その場所に新しい用件番号が付けられます。会議など1件の用件が長時間になったときなどに、複数の用件に分割しておくと再生したい場所がすばやく探せ、便利です。分割したい用件が入っているフォルダの用件数が999件になるまで、または、フォルダが5個ある場合は、全用件数が1,012件になるまで、用件を分割できます。

1 再生中に分割/ボタンを押す。

用件タイトルまたはファイル名と用件番号と一緒に「分割しますか？ ［分割］ボタンで実行」が表示されます。

2 分割/ボタンを押す。

分割アニメーションと「分割中. . . 」が表示されて、新しい用件番号がつき、以降の用件番号はひとつずつ送られます。

用件1	用件2		用件3
	▲ 用件分割		
用件1	用件2	用件3	用件4

用件番号が1つずつ増える

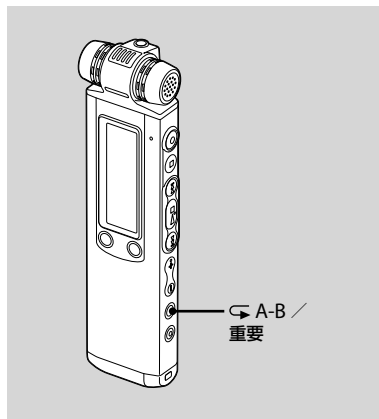
ご注意

- 用件を分割するには、メモリーに一定の空き容量が必要です。詳しくは「システム上の制約」（104ページ）をご覧ください。
- 用件タイトル、アーティスト名は分割した後ろの用件も同じになります。
- 重要マーク（68ページ）の付いた用件を分割した場合、分割した後ろの用件にも同じ重要マークが付きます。
- ブックマークの位置で分割した場合はブックマークは消去されます。
- 分割した後ろの用件の録音日時は分割位置の録音日時となります。ただし、本機で録音したLPCMファイルやMP3ファイルを分割した場合は、分割した後ろの用件の録音日時は分割する元の用件の録音日時となります。

- A-Bリピート中や1件リピート中に分割すると、リピート設定は解除されます。
- 手順1の後、10秒経過した場合は、もう一度手順1からやり直してください。
- 本機で録音されたファイル以外(パソコンなどで転送したLPCMファイルやMP3ファイルやWMAファイル)は分割できません。
- 分割した用件は再結合できません。
- 頻繁に用件分割をすると、分割ができなくなることがあります。
- アラーム設定した用件を分割すると、分割した後ろの用件にはアラーム設定は残りません。
- 用件のはじめから0.5秒までと終わりから0.5秒までの間では用件分割はできません。
- ブックマーク設定位置の前後0.5秒の区間では用件分割できません。
- フォルダ表示が 📁 になっているときは、用件分割できません。

用件分割した部分を探して聞くには

分割した用件を1件として用件番号がついているので、用件番号を探すときと同様に⏮またはボタン⏭ボタンを押して再生する部分を探してください。

用件に重要順位をつける — 重要マーク

「★★★」(最重要)、「★★」、「★」の３種類の重要マークをつけてほかの用件と区別することができます。停止中または再生中に操作ができます。

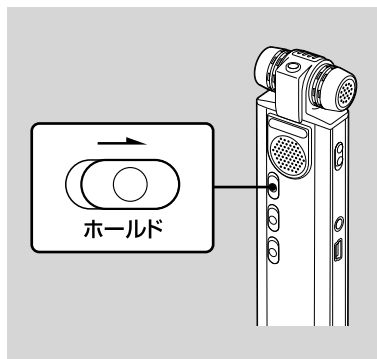
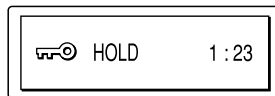
1 **重要マークを付けたい用件を表示させる。**

2 **⊊A-B ／重要ボタンを長押しする。**
★マークが点滅します。

3 **★マークを追加するには、⊊A-B ／重要ボタンをもう一度長押しする。**
ボタンを長押しするたびに以下の順に設定されます。

→重要マークなし→★→★★→★★★

ご注意
- LPCMファイル、MP3ファイル、WMAファイルには重要マークは付けられません。
- フォルダ表示が 📁 になっているときは、重要マーク設定ができません。

誤操作を防止する — ホールド機能

誤動作を防止するには、録音、再生中にホールドスイッチを矢印の方向にずらします。下記の表示が3秒間表示され、すべてのボタンが操作できなくなります。

ホールドを解除するには

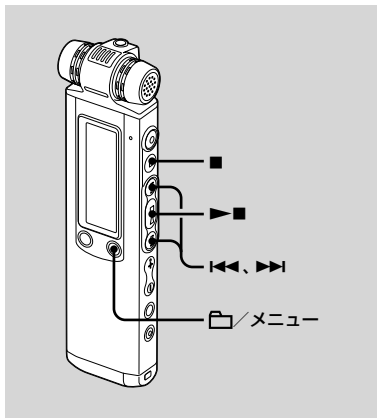
表示を出し、操作できるようにするには、ホールドスイッチを矢印と反対の方向にずらします。

ご注意

録音中にホールドにした場合、録音を止めるには、まずホールドを解除してください。

ホールド中でもアラーム再生は止められます。

アラーム再生時、アラーム音や用件再生を止めるときには■（停止）ボタンは使えます。（通常の用件再生は停止できません。）

メニューの使いかた

1 🗀／メニューボタンを長押しして、メニューモードに入る。

メニュー画面が表示されます。

2 I◄◄または►►Iボタンを押して、設定したい項目を選び、►■ボタンを押して決定する。

3 I◄◄または►►Iボタンを押して、設定し、►■ボタンを押して決定する。

4 ■（停止）ボタンを押して、メニューモードを終了する。

ご注意

約1分間なにもしないと、メニューモードが自動的に終了し、通常の画面に戻ります。

1つ前の画面に戻るには

メニュー操作中に 🗀／メニューボタンを押します。

メニュー操作を途中で中止するには

■（停止）ボタンを押します。

メニュー一覧

メニュー		動作モード(○：設定可能／－：設定不可)→ 設定項目	停止中	再生中	録音中
録音モード		MP3 48k、MP3 128k、MP3 192k、LPCM 22/16、LPCM 44/16、LPEC LP、LPEC SP、LPEC STLP、LPEC ST、LPEC STHQ	○	－	－
録音感度		口述、会議、高感度、音楽、マニュアル	○	－	○
LCF（LOW CUT）		ON、OFF	○	－	○
VOR		ON、OFF	○	－	○
表示切り換え		経過時間、残り時間、録音日時	○	○	－
DPC		n%（n＝–75 ～ ＋200）	○	○	－
ボイスアップ		弱、強、OFF	○	○	－
EFFECT		BASS1、BASS2、OFF	○	○	－
イージーサーチ		ON、OFF	○	○	－
再生モード		1、、ALL、1、、ALL	○	○	－
追加／上書き		追加、上書き、OFF	○	－	－
フォルダ内消去		フォルダ内全消去しますか？→はい、いいえ	○	－	－
ブックマーク消去		ブックマークを消去しますか？→はい、いいえ	○	－	－
用件移動		移動先フォルダ	○	○	－
アラーム		新規、アラーム一覧→変更、解除	○	－	－
詳細メニュー			○	－	○
	LIMITER	ON、OFF	○	－	○
	PRE REC	ON、OFF	○	－	－
	シンクロ録音	ON、OFF	○	－	－
	外部入力選択	MIC IN、AUDIO IN	○	－	○
	時計設定	自動、手動	○	－	－
	時刻表示形式	12時間、24時間	○	－	－

メニュー		動作モード(○：設定可能／ー：設定不可) → 設定項目	停止中	再生中	録音中
	フォーマット	全てのデータを消去しますか？→はい、いいえ	○	ー	ー
	ビープ	ON、OFF	○	ー	ー
	LED	ON、OFF	○	ー	ー
	バックライト	10秒、60秒、OFF	○	ー	ー
	USB充電	ON、OFF	○	ー	ー

メニュー	設定項目（*:初期設定）	参照ページ
録音モード	**音質などを設定します。** MP3 48k： モノラル標準録音。 MP3 128k： ステレオ標準録音。 MP3 192k*： ステレオ高音質録音。 LPCM 22/16： ステレオ長時間録音。 LPCM 44/16： ステレオ高音質録音。 LPEC LP： モノラル長時間録音。 LPEC SP： モノラル標準録音。 LPEC STLP： ステレオ長時間録音。 LPEC ST： ステレオ標準録音。 LPEC STHQ： ステレオ高音質録音。	29
録音感度	**録音感度を設定します。** 口述： 口述録音など、マイクを口元に近づけて録音したり、近くの音や大きい音を録音するときに使用します。 会議*： 広い会議室での録音など、遠くの音や小さい音を録音するときに使用します。 高感度： より高感度にひずみのない音で録音できます。 音楽： 音楽など楽器の特性を生かした録音するのに適しています。 マニュアル：録音レベルをお好みに設定して録音できます。	31
LCF（LOW CUT）	**LCF（Low Cut Filter）機能を設定して、低い周波数の音をカットし、プロジェクターなどのノイズや風切り音を軽減することで音声をよりクリアに録音できます。** ON： LCF機能を設定します。 OFF*： LCF機能を解除します。	38

メニュー	設定項目（*:初期設定）	参照ページ
VOR	**VOR（Voice Operated Recording）機能を設定します。** ON：　ある大きさ以上の音をマイクが拾うと自動的に録音が始まり、音が小さくなると録音を一時停止します。●（録音／一時停止）ボタンを押して、録音を始めるとVOR機能が働きます。 OFF*：　VOR機能は働きません。 **ご注意** 「録音感度」が「マニュアル」に設定されているときはVOR機能は働きません。	39
表示切り換え	**停止／再生中の表示モードを設定します。** 経過時間*：　1用件の経過時間 残り時間：　1用件の残り時間 録音日時：　録音した日時	－
DPC	**DPC（Digital Pitch Control）の設定をします。** DPC（速度調整）入／切スイッチを「入」にした場合、再生速度を、＋200%から－75%の範囲で調節をします。＋設定では「＋10」刻みで、－設定では「－5」刻みで設定されます。 （－30%*）	54
ボイスアップ	**聞き取りにくい小さな音を聞きやすい大きさに自動調整して再生する設定をします。** 弱：　ボイスアップ機能の効果を小さくします。 強：　ボイスアップ機能の効果を大きくします。 OFF*：ボイスアップ機能を無効にします。	57

メニュー	設定項目（*:初期設定）	参照ページ
EFFECT	**再生時の低音効果を設定します。** BASS1：低音が強調されます。 BASS2：低音が更に強調されます。 OFF*：EFFECT機能は働きません。 **ご注意** 内蔵スピーカーで再生しているときにはEFFECT機能は働きません。	55
イージーサーチ	**イージーサーチを設定します。** ON：再生中、▶▶Iボタンを押すと、約10秒進め、I◀◀ボタンを押すと、約3秒戻ります。会議録音などで、聞きたいところをすばやく探すのに便利です。 OFF*：イージーサーチ機能が働きません。I◀◀または▶▶Iボタンを押すと、用件を送り／戻しします。	51
再生モード	**再生モードを設定します。** 1：1件用件を再生し、再生終了後に停止する。 フォルダ*：フォルダ内の用件を連続再生し、再生終了後に停止する。 ALL：全用件を連続再生し、再生終了後に停止する。 リピート1：1件用件をリピート再生する。 リピートフォルダ：フォルダ内の用件をリピート再生する。 リピートALL：全用件をリピート再生する。	52
追加／上書き	**追加録音、上書き録音を設定します。** 追加：追加録音を設定します。 上書き：上書き録音を設定します。 OFF*：追加録音も上書き録音もしません。	42、43
フォルダ内消去	**選んだフォルダの中身をすべて消去します。** 消去する前に、フォルダ／メニューボタンを押してフォルダを表示させ、消去するフォルダを選んでから、メニュー操作にしてください。 はい：「消去中...」が表示され、選んだフォルダの中身が消去されます。 いいえ*：消去はキャンセルされます。	65

メニュー	設定項目(*:初期設定)	参照ページ
ブックマーク消去	**選んだ用件のブックマークを解除します。** 消去する前に、□/メニューボタンを押してフォルダを表示させ、消去するブックマークがついた用件を選んでから、メニュー操作にしてください。 はい：　「消去中...」が表示され、選んだブックマークが消去されます。 いいえ*：消去はキャンセルされます。	58
用件移動	**選んだ用件を選んだフォルダに移動します。** 移動する前に、□/メニューボタンを押してフォルダを表示させ、移動したい用件を選んでから、用件移動メニュー操作をしてください。	66
アラーム	**アラーム再生を設定します。** 新規*：　日時(再生を始める日時を設定します)、日曜日、月曜日、火曜日、水曜日、木曜日、金曜日、土曜日、毎日(それぞれ再生を始める時刻を設定します) アラーム一覧：すでに設定してある番号、日時、時刻を表示します。 変更：選んだ日時、時刻を変更します。 解除：選んだ日時、時刻の再生を解除します。	61
詳細メニュー		
LIMITER	**マニュアル録音時に突発的な大音量が入力した場合、音のひずみを防ぐために入力を自動的に調整します。** ON*：LIMITER機能を設定します。 OFF：LIMITER機能を解除します。 **ご注意** 「録音感度」が「マニュアル」に設定されているときに有効です。	34
PRE REC	**録音を開始する前の0 ～ 5秒分の音をメモリーに保存することによって、●(録音/一時停止)ボタンを押す0 ～ 5秒前の音から録音を開始することができます(プリレコーディング機能)。** ON：　プリレコーディング機能を設定します。 OFF*：プリレコーディング機能を解除します。	36

メニュー	設定項目(*:初期設定)	参照ページ
詳細メニュー(つづき)		
シンクロ録音	**2秒以上無音の部分が続いた場合、録音は一時停止状態になり、次に音を感知したところから新しい用件として録音します。** ON： シンクロ録音機能を設定します。 OFF*： シンクロ録音機能を解除します。 **ご注意** オーディオコードをつないで、「外部入力選択」メニューで「AUDIO IN」を選んだ場合にシンクロ録音ができます。	47
外部入力選択	**マイクジャックから録音する外部入力を選択します。** MIC IN*： 外部マイクをつないだときに選びます。 AUDIO IN： オーディオケーブルなど、外部マイク以外のものをつないだときに選びます。	45
時計設定	自動*： 本機をコンピューターにつないで、Digital Voice Editorを起動すると、コンピューターの時計に自動的に合わせます。 手動： 「年」「月」「日」「時」「分」をそれぞれ設定して時計を合わせます。	20
時刻表示形式	**時刻表示形式を設定します。** 12時間： 12：00AM＝真夜中、12：00PM＝正午 24時間*： 0：00＝真夜中、12：00＝正午	21

メニュー	設定項目（*:初期設定）	参照ページ
詳細メニュー（つづき）		
フォーマット	**「全てのデータを消去しますか？」が表示された後、ドライブの初期化を設定します。** はい：　「フォーマット中...」が表示され、初期化します。 いいえ*：初期化しません。 **ご注意** • フォーマットは、必ず本機で行ってください。パソコンでフォーマットすると音が途切れたり録音可能時間が短くなってる可能性があります。 • フォーマットをすると本機に保存したすべてのデータが消去されます。一度消去した内容はもとに戻すことはできません。ご注意ください。	−
ビープ	**確認音を設定します。** ON*：操作時の受け付け確認音およびエラーのビープ音が鳴ります。 OFF：操作時の受け付け確認音やエラー音が鳴りません。 **ご注意** 「OFF」に設定していてもアラームは鳴ります。	−
LED	**録／再ランプの点灯、消灯を設定します。** ON*：動作中は録／再ランプが点灯または点滅します。 OFF：動作中も録／再ランプは点灯／点滅しません。 **ご注意** USBケーブルでパソコンに接続しているときは、「OFF」に設定していても録／再ランプは点灯／点滅します。	−

メニュー	設定項目（*:初期設定）	参照ページ
詳細メニュー（つづき）		
バックライト	**バックライトの点灯、消灯を設定します。** 10秒*：バックライトが10秒間点灯して消灯します。 60秒： バックライトが60秒間点灯して消灯します。 OFF： バックライトが点灯しません。	–
USB充電	**USB接続中の充電のON ／ OFFを設定します。** ON*： 充電式電池を充電します。 OFF： 充電機能は働きません。 **ご注意** 別売のUSB ACアダプターを使って充電するときは、この設定は関係ありません。	16

パソコンに接続して使う

本機はパソコンに接続することによって次のようなことができます。

ファイルを本機からパソコンにコピーして保存する（83ページ）

本機にあるファイルやフォルダをパソコンにコピーして保存することができます。

ファイルをパソコンから本機にコピーして再生する（84ページ）

USBケーブルで本機をパソコンに接続して、パソコンに保存してあるWAV/MP3/WMAのファイルをドラッグアンドドロップ操作でコピーして再生することができます。

Digital Voice Editorで用件の管理・編集をする（87ページ）

付属のソフトウェアDigital Voice Editorを使って、本機で録音した用件をパソコンに取り込んで管理・編集したり、パソコンに保存されている音楽ファイルを本機に転送したりできます。

USBマスストレージとして使う（94ページ）

パソコンに保存されている画像やテキストファイルなどを一時的に保存することができます。

パソコンに必要なシステム構成

Digital Voice Editorを使う場合

Digital Voice Editorをお使いの場合は89ページをご覧ください。

Digital Voice Editorを使わない場合

Digital Voice Editorを使わずにパソコンと接続する場合やUSBマスストレージとして使う場合に必要なシステム構成は以下の通りです。

OS

Windows Vista® Ultimate Service Pack 1 以降
Windows Vista® Business Service Pack 1 以降
Windows Vista® Home Premium Service Pack 1 以降
Windows Vista® Home Basic Service Pack 1 以降
Windows® XP Media Center Edition 2005 Service Pack 3 以降
Windows® XP Media Center Edition 2004 Service Pack 3 以降
Windows® XP Professional Service Pack 3 以降

Windows® XP Home Edition Service Pack 3 以降
Windows® 2000 Professional Service Pack 4 以降
Mac OS X（v10.2.8 - v10.5）
標準インストール（日本語版のみ）

サウンドボード

上記OSに対応のもの

ポート

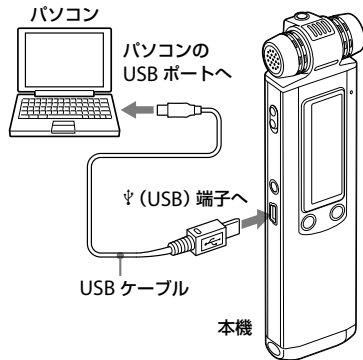
USBポート

ご注意

- 推奨環境すべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。
- 自作パソコン等へお客様自身がインストールしたものや、NEC PC-98シリーズとその互換機、アップグレードしたもの、マルチブート環境、マルチモニタ環境での動作保証はいたしません。
- 上記以外のOSは動作保証いたしません。（Windows® 98 / Windows® 98SE / Windows® Me / Linuxなど）
- Windows® XPについては、64bit版のOSは動作保証いたしません。
- 最新の対応OSについては、ICレコーダーカスタマーサポートページ http://www.sony.co.jp/ic-rec-support をご覧ください。

本機をパソコンに接続する

本機とパソコンで用件をやり取りするためには、本機をパソコンに接続します。

本機の ⭠(USB)端子とパソコンのUSBポートを、付属のUSBケーブルで接続します。USBケーブルは、本機とパソコンの電源を入れた状態で抜き差しできます。接続するとパソコン側で本機を認識することができ、用件のやり取りが行えます。
接続している間は本機の表示窓に「接続中」の表示が出ています。

ご注意

- 1台のパソコンに2台以上のUSB機器を接続した場合の動作保証はいたしかねます。
- USBハブ、またはUSB延長ケーブルをご使用の場合の動作保証はいたしかねます。必ず、付属のUSBケーブルのみで接続してください。
- 同時にお使いになるUSB機器によっては、正常に動作しないことがあります。

- パソコン接続時は必ず電池を挿入してからお使いください。
- パソコンとは必要なときだけ接続することをおすすめします。パソコンを使って操作しないときは、USBケーブルははずしておいてください。

本機をパソコンから取りはずす

必ず下記の手順で取りはずしてください。この手順で行わないと、データが破損するおそれがあります。

1 録／再ランプが点滅していないことを確認する。

2 本機につながれているUSBケーブルをパソコンのUSBポートから取りはずす。

Windowsの場合：
タスクバーにある「ハードウェアの安全な取り外し」を左クリックし、「USB大容量記憶装置デバイス」を選びクリックしてください。
Macintoshの場合：
デスクトップの「IC RECORDER」のアイコンをドラッグして、「ゴミ箱」アイコンの上にドロップしてください。

取りはずしかたの詳細については、お使いのパソコンの取扱説明書をご覧ください。

ファイルを本機からパソコンにコピーして保存する

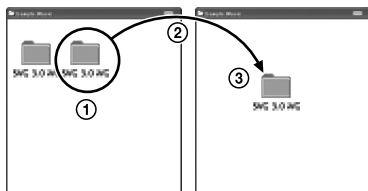
本機にあるファイルやフォルダをパソコンにドラッグアンドドロップ操作でコピーして保存することができます。

1 本機をパソコンに接続する（82ページ）。

Windowsでは、「マイコンピュータ」を開き、「IC RECORDER」が新しく認識されているかを確認してください。Macintoshでは、デスクトップに「IC RECORDER」という名前のドライブが表示されているかを確認してください。

2 転送したいファイルやフォルダをパソコンにコピーする。

「IC RECORDER」に入っているファイルが入っているフォルダをパソコンのローカルディスクにドラッグアンドドロップします。

💡フォルダをコピーする
（ドラッグアンドドロップ）

①コピーしたいフォルダをクリックしたまま、
②保存先まで移動（ドラッグ）して、
③はなす（ドロップ）

ファイルをパソコンから本機にコピーして再生する

Digital Voice Editorを使わなくても、パソコンにある音楽（語学）ファイル（WAV ／ MP3 ／ WMA）をドラッグアンドドロップ操作で本機にコピーして再生することができます。

パソコンにある音楽ファイルを本機にコピーして再生する場合の最大再生時間（曲数*）は下記のようになります。

	128 kbps	256 kbps
ICD-SX850	71時間15分（1,068曲）	35時間35分（533曲）
ICD-SX950	142時間50分（2,142曲）	71時間25分（1,071曲）

* 1曲4分を転送した場合

1 **本機をパソコンに接続する（82ページ）。**

Windowsでは、「マイコンピュータ」を開き、「IC RECORDER」が新しく認識されているかを確認してください。Macintoshでは、デスクトップに「IC RECORDER」という名前のドライブが表示されているかを確認してください。

2 パソコン内の音楽ファイルが入っているフォルダを本機にコピーする。

WindowsではExplorerを使って、MacintoshではFinderを使って、音楽ファイルが入っているフォルダを「IC RECORDER」にドラッグアンドドロップします。

本機では最大500個のフォルダまで認識できます。1個のフォルダには最大999件のファイルを、またフォルダ全体では最大5,000件のファイルまで入れることができます。

3 本機をパソコンからとりはずした後、本機の🗀／メニューボタンを押してフォルダを選ぶ。

4 ⏮または⏭ボタンを押して再生したいファイルを選び、►■ボタンを押す。

5 再生を止めるには■ボタンを押す。

ご注意

- パソコンからコピーした音楽（語学）ファイルでは、再生はできますが、ファイル（用件）の分割、移動などはできません。
- 取りはずすときは「本機をパソコンから取りはずす」（83ページ）をご覧ください。

フォルダとファイルの構成

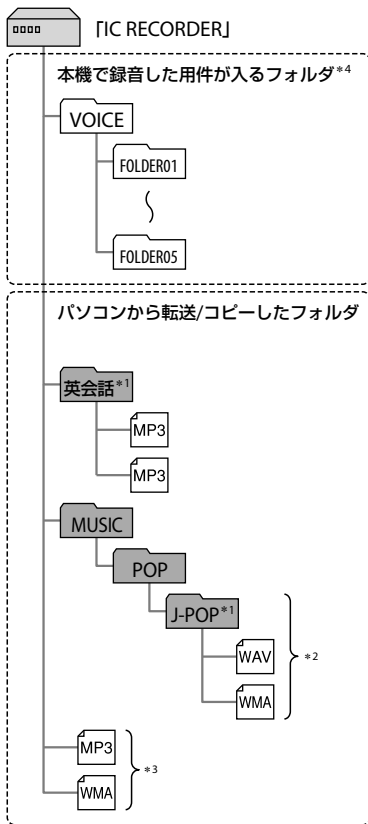
パソコンの画面で見ると図のように表示されます。

フォルダの違いは、本機の表示窓に表示されるフォルダ表示で区別できます。

🗀：本機で録音した用件が入るフォルダ（お買い上げ時に作成されています。）

🗀：パソコンから転送したフォルダ（パソコンから転送したときに表示されます。）

ご注意

「VOICE」フォルダにファイルを転送しても、本機では再生されません。

*1 音楽ファイルが保存されたフォルダ名は本機でも同じフォルダ名として表示されます。管理しやすいフォルダ名にしておくと便利です。（図は、フォルダ名称の例です。）

*2 音楽ファイルを認識できるのは、本機にコピーしたフォルダの3階層目までとなります。図の中の「J-POP」までが本機で認識されます。

*3 音楽ファイルを単独でコピーすると「未分類」のフォルダとして扱われます。

*4 「VOICE」フォルダ直下にファイルを転送しても認識できません。ファイルを転送するときは、「VOICE」フォルダ内のフォルダの中にファイルを転送してください。

ヒント

音楽ファイルには、タイトル名やアーティスト名などの情報を登録することができます。本機ではタイトル名やアーティスト名を表示することができますので、音楽ファイルを作成するソフトやパソコンで入力しておくと便利です。

ご注意

- ファイル名やフォルダ名に使用する文字の長さやOSにより、転送できる数に制約があります。
- アーティスト名が登録されていない場合は、「Unknown」と表示されます。
- タイトル名が登録されていない場合は、ファイル名が表示されます。
- LPCMファイルに登録されたタイトル名またはアーティスト名は本機では表示されません。ファイル名を表示します。
- 取りはずすときは「本機をパソコンから取りはずす」(83ページ)をご覧ください。

付属のDigital Voice Editorを使う

Digital Voice Editorでできること

Digital Voice Editorを使って、本機に録音した用件をパソコンに取り込み、用件の管理、再生などを行うことができます。
使用方法の詳細はDigital Voice Editorのヘルプをご覧ください。

本機で録音した用件をパソコンに取り込む

本機に録音した用件を、USB接続で、用件単位、フォルダ単位、または全用件ごとパソコンのハードディスクなどに保存できます。保存形式は、"メモリースティック"などのMSV（LPEC）ファイル、MSV（ADPCM）ファイル、MP3ファイル、Windows標準のWAVファイルから選べます。

パソコン上で用件を再生する

用件をパソコン上で再生することができます。通常の再生のほか、1件リピート再生、AB間リピート再生、イージーサーチ、ブックマーク再生を行うことができます。また、再生スピードの調節も可能です。

パソコンに保存した用件を本機に追加、本機で再生する

一度パソコンに保存した用件はもちろん、E-mailなどで受け取った音声ファイル、MSV（LPEC/ADPCM）、WAV、MP3、WMA形式を用件単位、フォルダ単位で、USB接続で本機に追加することができます。追加した用件は、本機上で再生できます。

パソコン上で本機内またはパソコンに保存された用件を編集する

用件のフォーマットによって、用件タイトルやユーザー名の変更、用件のソート、重要マークやブックマークの設定／解除、用件の分割／結合など、パソコン上でさまざまな編集が可能です。本機内の用件については、パソコン上で順番を移動させることができます。また、パソコン内に保存された用件については、音声ファイル形式を変換して保存することができます。

オリジナルの音楽CDやデータCDを作成する

CD Burning Tool for DVEを起動して、本機で録音した用件やDigital Voice Editorでパソコンのハードディスクに保存したお好みの用件からオリジナルの音楽CDやデータCDを作ることができます。

その他の便利な使いかた

- Microsoft Outlook ExpressなどのMAPI対応のメール送信ソフトウェアを利用して音声ファイルを添付して音声メールを送れます。
- 別売の音声認識ソフトウェアDragon NaturallySpeaking™との組み合わせで、本機で録音し、Digital Voice Editorでパソコンに取り込んだ音声を、文字に変換（テキスト変換）することができます。
- Digital Voice Editor側で本機のユーザー名やアラーム再生の設定／解除やその他の動作モードなどを変更することができます。
- CD Recording Tool for DVEを起動して、CDの音声を再生したり、パソコンのハードディスクにDigital Voice Editorの音声ファイル形式で保存することができます。保存したファイルは、Digital Voice Editorを使って本機に追加できます。

CD Recording Tool for DVEは、個人の使用の範囲内でお使いください。

必要なシステム構成

付属のソフトウェアを使うためには、次のようなハードウェア、ソフトウェアが必要です。

- **OS**

  Windows Vista® Ultimate Service Pack 1 以降
  Windows Vista® Business Service Pack 1 以降
  Windows Vista® Home Premium Service Pack 1 以降
  Windows Vista® Home Basic Service Pack 1 以降
  Windows® XP Media Center Edition 2005 Service Pack 3 以降
  Windows® XP Media Center Edition 2004 Service Pack 3 以降
  Windows® XP Professional Service Pack 3 以降
  Windows® XP Home Edition Service Pack 3 以降
  Windows® 2000 Professional Service Pack 4 以降
  標準インストール（日本語版のみ）

ご注意

- 上記以外のOSは動作保証いたしません。（Windows® 98/Windows® 98SE/Windows® Me/Linux/Mac OS等）
- Windows® XPについては、64bit版のOSは動作保証いたしません。
- 最新の対応OSについては、ICレコーダーカスタマーサポートページ http://www.sony.co.jp/ic-rec-support をご覧ください。

- 以下の性能を満たしたIBM PC/ATおよびその互換機
  - CPU：Pentium Ⅱ 266MHz以上（Windows Vista® 使用の場合Pentium III 800MHz以上）
  - RAM容量：128MB以上（Windows Vista® 使用の場合 512MB以上）
  - ハードディスクの空き容量：300MB以上（お使いのWindowsのバージョンや音声データの扱う量に比例して必要な空き容量が変化します）
  - ドライブ：CD-ROMドライブ（音楽CD、データCDを作成する場合は、CD-R/RWドライブが必要です）
  - サウンドボード：OSの項に記載されたMicrosoft® Windows®に対応のもの
  - USB ポート
  - ディスプレイ：ハイカラー（16ビットカラー）以上、800 x 480ドット以上
  - インターネット接続環境：音声メール機能および音楽CDのデータベースサービス（CDDB）利用の場合

ご注意

推奨環境すべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。また、自作パソコン等へお客様自身がインストールしたものや、NEC PC-98シリーズとその互換機、アップグレードしたもの、マルチブート環境、マルチモニタ環境、Macintoshでの動作保証はいたしません。

音声認識をお使いになる場合のご注意

音声認識ソフトウェアDragon Naturally Speaking™（別売／他社製）と組み合わせて音声認識機能を使う場合は、上記に加えてDragon NaturallySpeaking™が必要なシステム構成（動作環境）も満たしている必要があります。

音声メール送信機能をお使いになる場合のご注意

以下のメールソフトウェアと組み合わせてお使いになれます。上記に加えてお使いになるソフトウェアが必要なシステム構成（動作環境）も満たしている必要があります。なお、音声メールを送るには、別途インターネットサービスプロバイダと契約する必要があります。

- Microsoft® Outlook Express 5.5/6.0/7.0
- Microsoft® Outlook 2000/2002/2003/2007
- Microsoft® Windowsメール
- Eudora Pro 4.2-J、Eudora 4.3-J（ペイドモード）/5.0-J/5.1-J/6.0J/6.2J/7J（製品版）

Digital Voice Editorをインストールする

Digital Voice Editorをパソコンのハードディスクなどにインストールします。

ご注意

- Windows® XPについては、64bit版のOSは動作保証いたしません。
- インストールの途中で本機の接続ケーブルを抜き差ししないでください。正常にインストールされないことがあります。
- Windows® 2000 Professional上でインストールを行う場合、必ずユーザー名「Administrator」でログオンした後に行ってください。
- Windows Vista® Ultimate Service Pack1以降/Windows Vista® Business Service Pack1以降/Windows Vista® Home Premium Service Pack1以降/Windows Vista® Home Basic Service Pack1以降/Windows® XP Media Center Edition 2005 Service Pack3以降/Windows® XP Media Center Edition 2004 Service Pack3以降/Windows® XP Professional Service Pack3以降/Windows® XP Home Edition Service Pack3以降上でインストールを行う場合、必ず「コンピュータの管理者」＊に所属するユーザー名でログオンした後に行ってください。

  ＊ ユーザー名が「コンピュータの管理者」に所属しているかの確認は、Windowsの[コントロールパネル] – [ユーザー アカウント]を開き、表示されるユーザー名の下の部分をご覧ください。

- 本ソフトウェアをインストールすると、インストール先のOSによっては Microsoft DirectX のモジュールがインストールされる場合があります。このモジュールは本ソフトウェアのアンインストールによって削除はされません。
- インストールを始める前に、Windowsの他のアプリケーションは終了させておいてください。既存のDigital Voice Editorを起動している場合も終了させてください。
- 本ソフトウェアをインストールした後に、Memory Stick Voice Editor 1.0/1.1/1.2/2.0をインストールしないでください。本ソフトウェアが正常に動作しなくなります。（本機で"メモリースティック"上の用件の操作、編集ができます。）

1 本機を接続していないことを確認し、パソコンの電源を入れ、Windows®を起動する。

2 付属のCD-ROMをCD-ROMドライブに挿入する。

CD-ROMを入れると「IC Recorder Software Setup」が自動的に起動し「ICレコーダーソフトウェアセットアップ」の画面が表示されます。
起動しない場合は、Windowsエクスプローラで CD-ROMドライブを右クリックして開き、「SetupLauncher.exe」をダブルクリックしてください。

3 使用許諾契約の内容を確認したら、「使用許諾契約に同意します」を選び、「次へ」をクリックする。

「ソフトウェアインストール」の画面が表示されます。

4 「Digital Voice Editor」を選び、「インストール」をクリックする。

インストール設定を行います。画面の指示に従って操作してください。

Digital Voice Editorの旧バージョン/Memory Stick Voice Editorをインストールしている場合

旧バージョンのDigital Voice Editor/Memory Stick Voice Editorを削除するダイアログボックスが表示されます。画面の指示に従ってアンインストールを行ってください。用件ファイルは削除されません。

ご注意

不正なデータ改ざんを行った場合や、個人の使用の範囲外でファイルが使用された場合は、ファイルが再生できなくなったり、Digital Voice Editorが起動できなくなる場合があります。

保存方法を選択する画面が表示されたら

本機で録音したファイルをパソコンに保存するとき、MP3フォーマットに変換するかどうかを設定します。お好みに応じて選んでください。

ICD-P30/P50を使うかどうかの確認画面が表示されたら

ICD-P30/P50を使って録音した用件を編集するときは「使用する」を選びます。

5 「インストール準備の完了」の画面が表示されたら、[インストール]をクリックする。

インストールが始まります。

6 「InstallShield Wizardの完了」の画面が表示されたら、[はい、今すぐコンピュータを再起動します。]を選び、[完了]をクリックする。

パソコンが再起動します。再起動後、インストールは完了します。

アンインストールする

このソフトウェアが不要になった場合は、以下の手順で削除してください。

Windows2000/XPの場合

1. [スタート]ボタンをクリックし、[設定]→[コントロールパネル]→[プログラムの追加と削除]もしくは[アプリケーションの追加と削除]を順に選ぶ。
2. 一覧より[Digital Voice Editor 3]を選択した状態で、「削除」または「変更と削除」をクリックする。
3. 画面の表示に従って操作する。

Windows Vistaの場合

1. [スタート]ボタンをクリックし、[コントロールパネル]→[プログラム]カテゴリ内の[プラグラムのアンインストール]をクリックする。
2. 一覧より[Digital Voice Editor 3]を選択した状態で[アンインストールと変更]をクリックする。
3. [ユーザアカウント制御]画面で、[続行]をクリックする。
4. 画面の表示に従って操作する。

ご注意

このソフトウェアを一度インストールしたあと、別のドライブまたはフォルダに移動させる場合は、アンインストールしてから再度インストールを行ってください。ファイルを移動しただけでは、ソフトウェアは動作しなくなります。

ヒント

ソフトウェアを削除しても、パソコンに保存した用件ファイルは削除されません。

ヘルプを見る

各操作の詳細はヘルプを参照してください。

Digital Voice Editorを使ってコピーして再生する

1 **付属のUSBケーブルを使って、本機をパソコンに接続する（82ページ）。**

2 **付属のDigital Voice Editorを起動して、パソコンから本機に音楽（語学）ファイルを転送する。**

最大511個のフォルダまで認識できます。各フォルダに1件の用件が入っている場合は、340個のフォルダまで、フォルダが5個の場合は最大1,012件の用件まで、1個のフォルダには最大999件まで用件を入れることができます。

3 **本機をパソコンからとりはずした後、本機の 🗀／メニューボタンを押してフォルダを選ぶ。**

4 **⏮または⏭ボタンを押して再生したいファイルを選び、►■ボタンを押す。**

5 **再生を止めるには■ボタンを押す。**

Digital Voice Editorの使い方について詳しくは、Digital Voice Editorのヘルプをご覧ください。

USBマスストレージとして利用する — データストレージ機能

本機とパソコンをUSB経由で接続すると、パソコン上にある本機で録音したファイル以外の画像やテキストなどのファイルを本機に一時保存できます。

1 **本機をパソコンに接続する（82ページ）。**

Windowsでは、「マイコンピュータ」を開き、「IC RECORDER」が新しく認識されているかを確認してください。Macintoshでは、デスクトップに「IC RECORDER」という名前のドライブが表示されているかを確認してください。

2 **パソコン内の保存したいファイルが入っているフォルダをドラッグアンドドロップして本機にコピーする。**

WindowsではExplorerを使って、MacintoshではFinderを使って、保存したいファイルが入っているフォルダを「IC RECORDER」にドラッグアンドドロップします。

本機では最大500個のフォルダまで認識できます。1個のフォルダには最大999件のファイルを、またフォルダ全体では最大5,000件のファイルまで入れることができます。

ご注意

- 取りはずすときは「本機をパソコンから取りはずす」（83ページ）をご覧ください。
- 本機での再生順を設定することはできません。再生する順番を指定したい場合は、Digital Voice Editorをお使いください。

故障かな?と思ったら

修理を依頼される前に、もう一度下記項目をチェックしてみてください。それでも解決しない場合、ご不明な点は、裏表紙に記載のICレコーダー･カスタマーサポートページをご覧いただくか、ソニーの相談窓口(裏表紙)までお問い合わせください。
なお、保証書とアフターサービスについては、107ページをご参照願います。

こんなときは(本機)

症状	原因／処置
電源が切れない。	• 停止中にホールドスイッチを矢印の方向に動かす(24ページ)。
電源が入らない。	• ホールドスイッチが入っている(電源オフモード)(24ページ)。 → ホールドスイッチを矢印と反対の方向に動かす。
液晶表示が消えない。 表示が2重に見える。	• 保護シートが付いていませんか? → フィルムを剥がしてお使いください。
操作ボタンを押しても動作しない。	• 電池の⊕と⊖の向きが正しくない(16ページ)。 • 電池が消耗している(18ページ)。 • ホールドスイッチが入っている(ボタンを押すと「HOLD」と現在時刻が表示されます)(69ページ)。
スピーカーから音が出ない。	• 音量が絞られている(50ページ)。 • イヤーレシーバーをつないでいる(51ページ)。
イヤーレシーバーをつないでいても、スピーカーから音が出る。	• 再生中にイヤーレシーバーを差し込むとき、最後まで差し込まないとスピーカーからも音が聞こえてしまうことがあります。 → いったんイヤーレシーバーを抜いて、最後までしっかり差し込む。
録／再ランプが点灯しない。	• メニューの「LED」が「OFF」に設定されている(79ページ)。 → 「ON」に切り換える。
「メモリーが一杯です」が表示され、録音できない。	• メモリーがいっぱいになっている。 → 不要な用件を消去する(64ページ)か、パソコンに保存してから、メモリーの内容を消去する。

症状	原因／処置
「用件が一杯です」が表示され、操作できない。	• 選んだフォルダ( )に999件の用件が入っているか、または、全体で1,012件の用件（フォルダが5個のとき）が入っているため、録音や用件移動、用件分割ができない。 → 不要な用件を消去する（64ページ）か、パソコンに保存してから、メモリーの内容を消去する。
追加、または上書き録音できない。	• メニューの「追加／上書き」が「OFF」になっているとできません。設定し直してください（76ページ）。 • 録音残り時間が不足している場合は追加、または上書き録音できません。なお、上書き録音の場合、上書きされる部分は新たに録音される部分の録音が終わってから消去されるため、録音できるのは現在の残り録音可能時間分のみです。 • WMAファイル、本機で録音していないLPCMやMP3ファイルには追加／上書き録音できません。 • で表示されるフォルダでは操作ができません。
録音が途中で止まる。	• VOR（39ページ）、またはシンクロ録音（47ページ）が作動している。VOR、またはシンクロ録音を使用しないときは、メニューで「OFF」にする（78ページ）。
雑音が入る。	• 録音したとき、本機をこすってしまい、雑音が録音された。 • 録音中や再生中に本機を電灯線、蛍光灯、携帯電話などに近づけすぎると、ノイズが入ることがあります。 • 外部マイク（別売）で録音したとき、マイクのプラグが汚れていた。 → プラグをきれいにクリーニングする。 • イヤーレシーバーで聞いているとき、イヤーレシーバーのプラグが汚れている。 → プラグをきれいにクリーニングする。 • MP3録音時の一時停止、VOR録音、シンクロ録音、上書き／追加録音のつなぎ目でもノイズが入ることがあります。
録音レベルが小さい。	• 録音感度が「口述 」になっている。 → 「会議 」または「高感度 」に切り換える（31ページ）。 • 録音感度が「マニュアル」のときは、 ⏮ または⏭を押して録音レベルを調整してください。 • 小さな音が聞きづらいときは、デジタルボイスアップ再生をすると聞き取りやすくなる場合があります（57ページ）。

症状	原因／処置
他の機器から録音するとき、録音レベルが小さすぎたり大きすぎたりする。	• 他の機器のヘッドホン端子を使って本機と接続し、つないだ機器側で音量を調節してください。
再生スピードが速すぎたり遅すぎたりする。	• DPC（速度調整）入／切スイッチが「入」になっているため、メニューの「DPC」で調整した再生スピードで再生されている（75ページ）。 → DPC（速度調整）入／切スイッチを「切」にすると、通常の速度で再生されます。または、「DPC」で再生スピードを調整してください。
時計表示が「--:--」になる。	• 時計を合わせていない（20ページ）。
録音日時表示が「--y--m --d」または「--:--」になる。	• 時計を合わせていないときに録音した用件には、録音した日付は表示されません。
メニュー表示の項目が足りない。	• 再生、または録音中は、表示されないメニューがあります（72ページ）。
本機に表示される残り時間が、パソコン上での残量表示より短い。	• 本機ではシステム上必要な領域を差し引いて表示しているため、Digital Voice Editorでの残量表示と異なる場合があります。
電池の持続時間が短い。	• 18ページの乾電池の持続時間は、音量レベルを20で再生した場合の目安です。使用条件によって短くなる場合があります。
電池を入れたまま長い期間使用しない後で、使おうとすると電池がなくなっている。	• 使用しない場合でも、わずかですが電池を消耗します。この場合の電池寿命は、温度などの環境によっても異なりますが、約3ヶ月が目安です。長い間ご使用にならない場合は、電源を切る（24ページ）か、電池をはずしておくことをおすすめします。
充電中に電池マークのアニメーションが表示されない。	• 充電式電池が入っていない。 • 充電式電池を入れる向きが正しくない。 • USBケーブルが正しく接続されていない。 • メニューで「詳細メニュー」の「USB充電」が「OFF」になっている。パソコンに接続して充電する場合は、設定を「ON」にする（80ページ）。 • 内蔵スピーカーで再生している。内蔵スピーカーで再生中は充電できません。 • パソコンが休止状態では充電できません。
充電の途中で電池マークのアニメーション表示が消えてしまう。	• ニッケル水素以外の充電式電池が入っている。 • 劣化した充電式電池を使用している。 • 内蔵スピーカーで再生している。内蔵スピーカーで再生中は充電できません。

症状	原因／処置
電池マーク表示部に COLD または HOT が点滅表示している。	• 本機の充電可能な温度範囲外になっている。周囲温度が動作温度（5℃～ 35℃）になるようにする。
充電式電池の持続時間が短い。	• 5℃以下の環境で使用している。電池の特性によるもので故障ではありません。 • しばらく使用していなかった。何回か充電、放電（本機に入れて使用する）を繰り返す。 • 充電式電池の交換が必要です。新しい充電式電池と交換する。 • 短時間で電池マークが点灯しますがフル充電になっていません。電池残量が無い状態からフル充電までは約4時間かかります。
変更したメニュー設定が反映されていない。	• 設定変更直後に電池が抜かれたり、電池残量が無い状態でDigital Voice Editorの「本体設定」を使ってメニューの設定を変更した場合、本機のメニュー設定が反映されないことがあります。
「データベース更新中. . .」表示が消えない。	• 用件数が多いと、長時間表示されることがありますが、故障ではありません。表示が消えるまでお待ちください。
パソコンと接続できない。	• Digital Voice Editorのヘルプをご覧ください。 • 別売のパソコン接続キットICKIT-W1/W2/W5/W7/W9は本機とは接続できません。
起動に時間がかかる。	• 用件数が多いと、起動するのに時間がかかることがありますが、故障ではありません。停止画面になるまでお待ちください。
正常に動作しない。	• 電池を取り出して、もう一度入れ直す。
本機が動作しない。	• パソコンで初期化（フォーマット）している。 → 本機で初期化を行ってください（79ページ）。
パソコンで認識しない。 パソコンからフォルダ、ファイルが転送できない。	• パソコンから本機をはずし、再度接続してください。 • USBハブ、またはUSB延長ケーブルをご使用の場合は、付属のUSBケーブルを使って接続してください。 • 本機が対応しているシステム構成（81ページ）以外では、動作保証はいたしかねます。 • お使いのパソコンに複数のUSBポートがある場合は、別のUSBポートに接続してください。

症状	原因／処置
転送したファイルが再生できない。	• 転送したファイルが本機で再生可能なファイル形式(.mp3/.wma/.msv/.wav)と異なる。ファイルの名称を確認してください(87ページ)。
ファイル名が表示されないことがある。	• LPEC、MP3、WMAでは、タイトル名を登録していない場合、代わりにファイル名を表示します。タイトル名を表示したい場合は、パソコンでタイトル名を登録してください。 • LPCMではタイトル名／アーティスト名の表示に対応していないため、ファイル名が表示されます。
再生音が大きくなったりする。	• ボイスアップ設定が「強」または「弱」になっている。設定を「OFF」にする(57ページ)。

修理に出すと、録音した内容が消えることがあります。ご了承ください。

こんなときは（付属のDigital Voice Editor）

Digital Voice Editorのヘルプもあわせてご覧ください。

症状	原因／処置
インストールできない。	• ハードディスクの空き容量が少ない。 → 容量を確認してください。 • Winodows® 95/Windows® 98/Windows® 98 Second Edition/Windows® Millennium Edition/Windows® NTにインストールしようとした。 → 対応しているOSにインストールしてください。（Winodows® 95/Windows® 98/Windows® 98 Second Edition/Windows® Millennium Edition/Windows® NT/Mac OSには対応していません。） • Windows Vista® Ultimate Service Pack1以降/Windows Vista® Business Service Pack1以降/Windows Vista® Home Premium Service Pack1以降/Windows Vista® Home Basic Service Pack1以降/Windows® XP Media Center Edition 2005 Service Pack3以降/Windows® XP Media Center Edition 2004 Service Pack3以降/Windows® XP Professional Service Pack3以降/Windows® XP Home Edition Service Pack3以降上で「制限付きアカウント」に所属するユーザー名でログオンしている。 →「コンピューターの管理者」に所属するユーザー名でログオンしてください。 • Windows2000 Professional ServicePack4以降上で「Administrator」以外のユーザ名でログオンしている。 →「Administrator」でログオンしてください。 • 日本語以外のOSにインストールしようとした。 → 日本語のOSにインストールしてください。
本機と接続できない。	• ソフトウェアのインストール、接続ケーブルの接続などを正しく行ったか確認してください。 – 外付けUSBハブをご使用の場合には、直接パソコンに接続してください。 – 本機側の接続ケーブルを抜き差ししてください。 – 他のUSBポートで接続してみてください。 • システムサスペンド／システムハイバネーションモードに移行している。 → システムサスペンド／システムハイバネーションモードに移行しないでください。

症状	原因／処置
パソコンからの再生音量が小さい、 パソコンから音が出ない。	• サウンドポートが付いていない。 • パソコンにスピーカーが内蔵または接続されていない。 • ミュートが解除されていない。 • パソコン側で音量を上げてみてください。（詳しくはお使いのパソコンの取扱説明書をご覧ください。） • WAVファイルの場合は、サウンドレコーダー（Windows®に搭載）で音量を上げて保存しなおすこともできます。
保存した用件ファイルが再生、編集できない。	• 対応していないファイル形式の用件は再生できません。また、ファイル形式によっては一部の編集機能がお使いになれません。詳しくは、ヘルプをご覧ください。
カウンターやスライダーの動きがおかしい、 雑音が入る。	• 分割／結合、上書き録音、追加録音などを行った用件をパソコン上で再生したときに発生する場合があります。 → いったんハードディスクに保存してから*再度本機に戻すと、データが最適化され、正常な再生に戻ります。（*本機の形式に合ったファイル形式で保存してください。）
用件数が多くなると動作が遅くなる。	• 録音時間の長さに関係なく、本機内の用件の総数が多いと、処理に時間がかかることがあります。
用件の保存・追加・削除中に画面が動かなくなる。	• 録音時間の長い用件の場合、コピーまたは削除に時間がかかります。 → コピーまたは削除が終了するまでお待ちください。通常の操作ができるようになります。
本ソフトウェアを起動したときフリーズ（ハングアップ）してしまう。	• 本機と通信を行っている間は絶対にケーブルを抜かないでください。パソコンの動作が不安定になったり、本機内のデータが壊れる恐れがあります。 • 他にインストールされているドライバおよびアプリケーションソフトとのコンフリクトの可能性があります。 • 本ソフトウェアをインストールした後に、Memory Stick Voice Editor 1.x/2.xおよびDigital Voice Editor Ver. 2.xをインストールしないでください。本ソフトウェアが正常に動作しなくなります。

エラー表示一覧

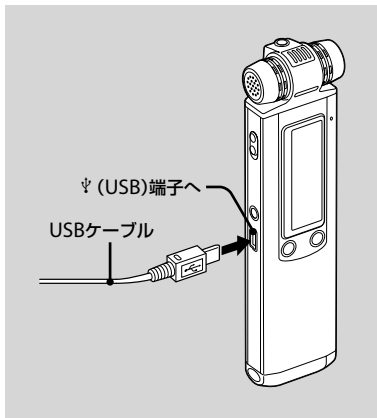
エラー表示	原因
電池が残りわずかです	• 電池が残りわずかのため、フォーマットやフォルダ内消去ができません。新しい電池の準備をしてください。
電池残量がありません	• 電池が消耗しています。新しい単4形乾電池と取り換えてください。充電式電池の場合は充電するか、充電済みの電池と取り換えてください。
メモリーが一杯です	• 録音できるメモリー容量がなくなりました。いくつかの用件を消去してからやり直してください。
用件が一杯です	• フォルダ内の用件の合計か、全体の用件数が最大になったため、新規の用件を作成できません。いくつかの用件を消去してからやり直してください。
ファイルが壊れています	• 選んだファイルのデータが破損しているので、再生や編集ができません。
本機でフォーマットが必要です	• パソコンで本機をフォーマットしたため、USB接続で電源を入れようとしても、動作に必要な管理ファイル作成ができません。メニューで本機のフォーマットをしてください。パソコンでフォーマットしないでください。
処理を継続できません	• メモリーの読み取りに失敗しました。電池を抜き差ししてみてください。 • 必要なデータをバックアップしてからメニューで本機をフォーマットしてください。 • 上記以外の場合は、ソニーの相談窓口(裏表紙)までご連絡ください。
時計を設定してください	• 時計合わせをしていないと、アラームは設定できません。
追加／上書き設定がOFFです	• メニューで追加、上書き録音設定が「OFF」に設定されているので、追加または上書き録音ができません。
用件がありません	• 選んだ用件フォルダには1件も用件が録音されていません。用件移動とアラーム再生の設定などの操作ができません。
既に設定済みです	• すでに別の用件で同じ日時にアラーム再生が設定されています。設定を変更してください。
過去の日時です	• 現在日時よりも前の日時でアラームを設定しようとしています。年月日などもう一度確認して、設定し直してください。
登録がありません	• アラーム設定を1件もしていない場合は、「アラーム一覧」は表示できません。アラーム設定を「新規」で設定してください。 • ブックマークを登録していない場合にブックマークを消去しようとしています。

エラー表示	原因
ファイルがプロテクトされています	• 選んだ用件が「読み取り専用」になっています。重要マーク、ブックマークの設定、用件分割、追加録音、上書き録音などができません。パソコン上で「読み取り専用」属性をはずすと、本機で操作できるようになります。 • ファイルがプロテクトされた状態で消去しようとしています。
非対応のデータです	• 本機で対応していないファイル形式のデータです。 • 著作権保護されたファイルは再生できません。
操作できません	• 選んだ用件がLPCMかMP3である場合、重要マーク、ブックマークの設定ができません。またWMAである場合、重要マーク、ブックマークの設定、用件分割、追加録音、上書き録音などができません。 • 🗀 で表示されるフォルダでは、重要マーク、ブックマークの設定、用件分割、追加録音、上書き録音などができません。 • 複数のフォルダに同じファイル名の用件が保存されているため、用件移動や用件分割ができません。ファイル名を変更してください。
マニュアル設定時は無効です	• メニュー「録音感度」が「マニュアル」に設定されています。VOR設定は働きません。
マニュアル設定時に有効です	• メニュー「録音感度」が「マニュアル」に設定されていません。LIMITER設定は働きません。
登録が一杯です	• アラーム登録は30件までです。未使用のアラーム設定を解除してください。
NEW TRACK	• 録音中の用件または音楽がファイルサイズの上限(MP3またはLPECの場合は1GB、LPCMの場合は、2GB)に達しています。用件は自動的に分割され、録音を継続します。
フォルダを切り換えます	• 🗀 で表示されるフォルダに用件がひとつもない場合、フォルダが表示できないため、表示できるフォルダに切り換えます。
ノイズカット設定時は無効です	• ノイズカット入/切スイッチが「入」になっているときはメニュー「EFFECT」機能は働きません。
故障です	• 何らかの原因でシステムエラーが発生しています。一度電池をはずし、再度入れ直してください。それでも動作しない場合は、ソニーの相談窓口(裏表紙)までご連絡ください。

システム上の制約

ICレコーダーの録音方式では、いくつかのシステム上の制約があり、次のような症状が出る場合があります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

症状	原因／処置
最大録音時間まで録音できない。	• 録音モードを混ぜて録音すると、最大録音時間はLPCM (44/16)モードとLPEC (LP)モードの最大録音時間の間になります。 • 上記の理由により、実際に録音した時間(カウンター表示)の合計と、「録音可能時間」を合計した時間が、最大録音時間より少なくなる場合があります。
音楽ファイルを順番に表示できない。	• パソコンを使って、本機に転送した音楽ファイルは、システムの制約により転送順にならないことがあります。
録音中に自動的に分割されてしまう。	• 録音中の用件または音楽がファイルサイズの上限(MP3またはLPECの場合は1GB、LPCMの場合は2GB)に達しています。用件は自動的に分割されます。
英文字がすべて大文字になってしまう。	• パソコンで作成したフォルダ名称の文字の組み合わせによっては英文字がすべて大文字になってしまうことがあります。
フォルダ名、タイトル名、アーティスト名、ファイル名に「□」が表示される。	• 本機で表示できない文字が使用されています。再生できないことがありますので、パソコンで本機で表示可能な別の文字に置き換えてください。
A-Bリピート設定で、設定位置がずれてしまう。	• パソコンを使って、本機に転送したファイルによっては、設定位置がずれてしまうことがあります。
録音中に分割操作ができない。	• 残り録音可能時間が少ないと分割操作できないことがあります。
録音中の分割操作で頭切れすることがある。	• メモリーの使用状況によっては、録音中の分割で音声が頭切れすることがあります。

USB ACアダプター（別売）につないで使う

USB ACアダプター（別売：AC-U50AD）を使って、本機と家庭用電源（コンセント）をつないで充電式電池を充電できます。充電をしながら本機を使用することができるため、長時間録音をする場合などに便利です。

1 本機の •⇠(USB)端子に、付属のUSBケーブルをつなぐ。

2 USBケーブルに別売のUSB ACアダプターをつなぐ。

3 USB ACアダプターをコンセントにつなぐ。

充電しながら本機を使うことができます。

充電中は、電池マークがアニメーション表示されます。電池マークが「FULL」になったら充電完了です。
（充電時間：約4時間*）
はじめてお使いになる場合や、しばらくお使いにならなかった場合は、なるべく電池マークが「FULL」になるまで連続して充電することをおすすめします。電池マークが消灯していたら充電ができていません。手順1からやり直してください。

* 室温で電池残量が無い状態から電池を充電したときの目安です。電池の残量や電池の状態などにより、上記の充電時間と異なる場合があります。また、充電式電池の温度が低い場合や、データを本機に転送中なども充電時間は長くなります。

本機を取りはずす

必ず下記の手順で取りはずしてください。この手順で行わないと、データが破損するおそれがあります。

1 **録音や再生などの動作中の場合、■（停止）ボタンを押して動作を停止する。**

2 **録／再ランプが点滅していないことを確認する。**

3 **USB ACアダプターをコンセントから抜き、本機をUSB ACアダプターから取りはずす。**

ご注意

- 電池マーク表示部が COLD または HOT と表示されている場合は充電ができません。周囲温度が5℃～ 35℃の環境で充電を行ってください。
- 内蔵スピーカーで再生中は充電できません。
- 録音中（録／再ランプが赤に点灯、点滅）やアクセス中（録／再ランプがオレンジに点滅）はコンセントにつないだ状態のUSB ACアダプターから本機を抜き挿ししたり、本機を接続したUSB ACアダプターをコンセントから抜き挿ししたりしないでください。データが破損するおそれがあります。また、用件数が多いと、起動画面が長時間表示されることがありますが、故障ではありません。表示が消えるまでお待ちください。
- USB ACアダプター（別売）使用時は、電池マークは表示されません。

使用上のご注意

ノイズについて

- 録音中や再生中に本機を電灯線、蛍光灯、携帯電話などに近づけすぎると、ノイズが入ることがあります。
- 録音中に本機に手などが当たったり、こすったりすると、雑音が録音されることがあります。

ご使用場所について

- 運転中のご使用は危険ですのでおやめください。

取り扱いについて

- 落としたり、強いショックを与えたりしないでください。故障の原因になります。
- 次のような場所には置かないでください。
  - 温度が非常に高いところ（60℃以上）。
  - 直射日光のあたる場所や暖房器具の近く。
  - 窓を閉めきった自動車内（特に夏期）。
  - 風呂場など湿気の多いところ。
  - ほこりの多いところ。
- 水がかからないようご注意ください。本機は防水仕様ではありません。特に以下の場合ご注意ください。
  - 洗面所などで本機をポケットに入れての使用。
    身体をかがめたときなどに、落として水濡れの原因となる場合があります。

– 雨や雪、湿度の多い場所での使用。
– 汗をかく状況での使用。
濡れた手で触ったり、汗をかいた衣服のポケットに本機を入れると、水濡れの原因になることがあります。

- 空気が乾燥する時期にヘッドホンを使用すると、耳にピリピリと痛みを感じることがありますが、ヘッドホンの故障ではなく、人体に蓄積された静電気によるものです。静電気の発生しにくい天然素材の衣服を身に着けていただくことにより、軽減されます。

万一故障した場合は、内部を開けずにお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

お手入れ

本体表面が汚れたときは、水気を含ませた柔らかい布で軽くふいたあと、からぶきします。シンナーやベンジン、アルコール類は表面の仕上げを傷めますので使わないでください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間はお買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

ソニーの相談窓口（裏表紙）、お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではICレコーダーの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能な期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店またはサービス窓口にご相談ください。

主な仕様

容量(ユーザー使用可能領域)

ICD-SX850:
4GB (約3.82 GB＝4,108,156,928 Byte)
ICD-SX950:
8GB (約7.66 GB=8,234,827,776 Byte)

メモリー容量の一部をデータ管理領域として使用しています。

最大録音時間*1

30ページ参照

*1 連続録音の場合は、途中電池交換が必要になります。詳しくは乾電池の持続時間(18ページ)をご確認ください。

周波数範囲

LPCM 44/16：50 ～ 20,000 Hz
LPCM 22/16：50 ～ 10,000 Hz
MP3 192k：50 ～ 16,000 Hz
MP3 128 k：50 ～ 16,000 Hz
MP3 48 k：50 ～ 14,000 Hz
LPEC STHQ：50 ～ 20,000 Hz
LPEC ST：50 ～ 16,500 Hz
LPEC STLP：50 ～ 7,000 Hz
LPEC SP：50 ～ 6,000 Hz
LPEC LP：50 ～ 3,500 Hz

MP3対応ビットレート、サンプリング周波数*2

ビットレート：
32 ～ 320 kbps、
可変ビットレート(VBR)対応
サンプリング周波数：16/22.05/24/32/44.1/
48 kHz

*[2] これに加えて本体の各録音モードで録音したMP3ファイルの再生にも対応しています。すべてのエンコーダーに対応しているわけではありません。

WMA対応ビットレート、サンプリング周波数[*3]
ビットレート：
32 ～ 192 kbps、
可変ビットレート（VBR）対応
サンプリング周波数：44.1 kHz

*[3] WMA Ver.9 に準拠していますが、MBR（Multi Bit Rate）、Lossless、Professional、Voiceには対応していません。著作権保護されたファイルは再生できません。

スピーカー
直径16 mm

入・出力端子
外部入力（ステレオミニジャック）
プラグインパワー対応
最小入力レベル 0.9mV
ヘッドホン（ステレオミニジャック）
負荷インピーダンス 、8～300Ω
USB端子
High-Speed USB対応

再生スピード調整（DPC）
－75%～＋200%

実用最大出力
150 mW

電源
DC2.4V、単4形充電式ニッケル水素電池（付属） 2本
DC3.0V、単4形アルカリ乾電池（別売） 2本

動作温度
5℃～ 35℃

最大外形寸法
約31.3×130.0×15.4 mm （突起部含まず）（幅／高さ／奥行き）（JEITA*[4]）

質量
約77 g （充電式ニッケル水素電池2本含む）（JEITA*[4]）

*[4] 電子産業技術協会（JEITA）の測定方法に基づいています。

付属品
10ページ参照

別売アクセサリー
アクティブスピーカー SRS-M50
エレクトレットコンデンサーマイクロホン
ECM-CS10、ECM-CZ10、ECM-TL1
オーディオコード RK-G136/G139
ニッケル水素電池専用充電器 BCG-34HRES
充電式ニッケル水素充電池単4形 NH-AAA-2BKA
USB充電AC電源アダプター AC-U50AD

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください

索引

数字、記号、アルファベット順

五十音順

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

著作権と商標について

著作権について

Copyright 1999, 2000, 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007, 2008, 2009 Sony Corporation

- 権利者の許諾を得ることなく、このマニュアルの全部または一部を複製、転用、送信等を行うことは、著作権法上禁止されております。
- あなたが録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上権利者に無断で使用できません。

モジュールについて

Digital Voice Editorは、以下のソフトウェアモジュールを使用しています。
Microsoft DirectX Runtime 9.0c
© 2004 Microsoft Corporation. All Rights Reserved.

商標について

- Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows Media、Outlook、DirectX およびロゴは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標、または商標です。
- MacintoshはApple Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。
- Pentiumは米国Intel Corporationの商標または登録商標です。
- Nuance、Nuanceのロゴ、Dragon、Dragon NaturallySpeaking、RealSpeakは、米国とその他の国々におけるNuance Communications Inc.、およびその関連会社の商標または登録商標です。
- Sound Forge は、米国およびその他の国における Sony Creative Software, Inc. の商標または登録商標です。
- 本機はFraunhofer IISおよびThomsonのMPEG Layer-3オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。
- Eudora、Eudora Proは、QUALCOMM Incorporatedの登録商標です。
- "Memory Stick"（メモリースティック）およびは、ソニー株式会社の商標です。
- "LPEC"および LPEC は、ソニー株式会社の登録商標です。
- 本機は、ドルビーラボラトリーズの米国および外国特許に基づく許諾製品です。

その他、本書で登場するシステム名、製品名、サービス名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では®、™マークは明記していません。

お問い合わせ窓口のご案内

本機についてご不明な点や技術的なご質問、故障と思われるときのご相談については、下記のお問い合わせ先をご利用ください。

- **ホームページで調べるには→ICレコーダー・カスタマーサポートへ**
  (http://www.sony.co.jp/ic-rec-support)
  ICレコーダーに関する最新サポート情報や、よくあるお問い合わせとその回答をご案内するホームページです。
- **電話・FAXでのお問い合わせは→ソニーの相談窓口へ(下記電話・FAX番号)**
  - 本機の商品カテゴリーは[ICレコーダー]です。
  - お問い合わせの際は、次のことをお知らせください。

    ◆セット本体に関するご質問時:
    - 型名:ICD-SX850/SX950
    - シリアルナンバー:電池ボックス内
    - ご相談内容:できるだけ詳しく
    - お買い上げ年月日

    ◆付属のソフトウェアに関連するご質問時:
    質問の内容によっては、お客さまのシステム環境について質問させていただく場合があります。上記内容に加えて、システム環境を事前に分かる範囲でご確認いただき、お知らせください。

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。 **http://www.sony.co.jp/support**

使い方相談窓口	フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・	**0120-333-020**
	携帯電話・PHS・一部のIP電話・	**0466-31-2511**
修理相談窓口	フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・	**0120-222-330**
	携帯電話・PHS・一部のIP電話・	**0466-31-2531**

※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

➡ 左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「303」+「#」 を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

FAX(共通)0120-333-389

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

4157612O2 (1)